
家庭教師ヒットマンREBORN! 秘密の少女

あんみつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

【Nコード】

N4582Y

【作者名】

あんみつ

【あらすじ】

ある日、間違えて神に殺されてしまって、死んでしまった、あいはら愛原未来。みらい未来。

神に、「間違つて殺してしまって、悪かった。その代わりに、REBORN！の世界に転生させてやる。」
と言われ。

未来は、自分が大好きなREBORN！の世界に行くことになった。しかし・・・彼女には、絶対に誰にも言えない・・・秘密があった。その秘密とは・・・

この話は、シモン編が終わってからのオリジナル話。

オリキャラ設定

名前	愛原 未来
フリガナ	アイハラ ミライ
身長	153cm
体重	40kg
髪型	お団子に、星がついているかんざしが刺さっている。
性格	めんどい事が嫌い、誰にでも偽の自分を出している。
	信用してる人でも、偽の自分。本心は、ださない。
好きなタイプ	強い人、かっこいい人、仲間のためなら何でもする人など・・・
嫌いなタイプ	弱い人、うるさい人、心配する人、ちょっとかいしてくる人など・・・
武器	何でも使えるが、おもに、剣（赤色、黒色）
能力	心が読める、未来が見える、相手をのつとることができる。

オリキャラ設定(後書き)

初めての小説です。

よんでくれてありがとうございます

これからもよろしく。

誰かに会う！！（前書き）

タイトル関係ないかも・・・

誰かに会うー！

ある日の帰り道……

未来「はあ、今日も詰まんなかったなあ。」

何でいつも同じ事しないといけないんだろう。」

一人で、ぶつぶつ言いながら、帰っていると……

？「そこのお前。」

今日こそ殺してやる。」

何を言ってるのかわからない人がこちらに向かって走ってくる。

その人の手には、なにかキラキラしているものを持っている。

次の瞬間、体に違和感が感じる。

まさか……と思ってみると。

その人が持っていた……キラキラとしたものが刺さってる。

それは、包丁だった。

未来は、そこに倒れた。

未来「うう……なに……これ……」

あ……れ……もしかして……死ぬパターン……か……
な……？」

未来は、苦しい顔で言った。

その人は、びつくりした顔で、

？「なつ・・・お前は、違う人・・・

悪かったな。

人違いだった・・・まあ、お前は、すぐ死ぬからな、安心しな。」

えっ・・・人違い？？

うそ・・・こんな死に方だよ・・・

もう、その言葉は、声に出せなかった。

だんだん意識が・・・飛んでいく・・・

？「じゃあな。

未来。」

未来は、意識を失った。

誰かに会うー！！（後書き）

今回は、長かったですね。

また次回

神に合う!!(前書き)

今日は、まだまだ書くかも……

神に合う!!!

未来「ううううここは???

だって私・・・死んだはずじゃないの???

未来が、悩んでいると・・・

?「おつ来た来た。

待ってましたよ今度からは、もっと早く起きてね」

誰かが、話しかけてきた。

見てみると・・・美少年!!!

かっこいい・・・イケメンだ!!!

えっ、でも何でここいるんだろ?

未来「あの・・・何でここにいるんですか??

イケm・・・お兄さん。」

危ない、危なくイケメンっていうところだった。

ふうう良かった良かった。

未来が安心してると・・・

ロック「そうかあうイケメンねうういいね!!!

あっ、初めまして。

俺の、名前は、ロック。職業は、神様ね!！」

未来「よろしくお願いします。」

えっ〜と、私は、愛原 未来です。」

未来は、やっぱり気づいてたんだ・・・えっ・・・神様???

この人・・・神様~~~~~!!!

ロック「名前は、もう知ってたよ!！」

だって俺神様だし!!

さっき未来会ったし。」

ロックが、俺は、すごいぞと言っているように聞こえる。

いやちがう・・・そういつてる。

未来「えっ・・・会ったて、どこ??」

「ここはどこ??」

未来は、もう敬語ではない。

ロック「えっ・・・だって君殺したの俺だし

いや〜あの時はごめん〜。

未来に似てる人だったし。まあ〜ドンマイ未来」

神に合ひ！！(後書き)

後に、続きます。

神を憎む！！（前書き）

前の続きです。

神を憎む！！

未来「ドンマイだって……ふざけんなよ……！！」

人を、まちがった！！！！！！それぐらいで、勝手に、殺すな！！！！

今度は、私が、お前を殺す！！！！」

私は、人生でこれだけ怒ったのは、これが初めてだ！！

ロックは、私の前で、土下座をして、

ロック「ごめんなさい。申しません……絶対に！！」

あと、殺気を消してください。

貴方の好きな……REBORN！の世界に連れて行く
で！！

能力もつけときます……なんでもしますんで、許してく
ださい！！！！」

ロックが、泣いて謝って来たので、未来は、殺気を消して……笑
つて。

未来「へえ……なんでも……いいよ。」

その代わりに、私が、想像した者をだしてね（ニコッ）」

偽の笑顔で、言った。

ロックは、顔が青い。

ロック「わかりました。今想像してください。」

いきます。楽しんできてください。

あっちに行ったら電話があるんで、それでかけてください。

┌

未来は、体が浮く感じになって・・・落ちた。

神を憎む!! (後書き)

やうとREBORN!!の世界です!!..
お楽しみに。

REBORN!の世界!!

未来「いった〜。あつついたのか。ここかあ〜
思いど通りにホントになるんだ。」

感心しながら・・・携帯を探す。

ここは、並中から、徒歩5分の所だ。

一戸建てで、4階まであり・・・1階ずつとても広い。

未来は、携帯をとり、ロックにかけた。

未来「プルルル・・・プルルル・・・ハイ」

もちろんロックが出た。

未来「あつ・・・ロック。あのさあ〜ワンコールで出てね。
守らないと・・・わかるよね?」

未来は、笑いながら言った。

ロック「わかりました。ああ〜タンスに服があります。
武器もありますんで・・・。
いつてらっしゃい。」

未来「わかった。バイバイ〜。」

これは便利!!

따라서 19°

REBORN!の世界!! (後書き)

次回みんなに会います!!

ボンゴレファミリーに会うー！

ここかぁ〜変わらないな。

あっそつだー！ 雲雀どこだ〜っていない。

あぁ〜あ……まっいいや。

職員室行かなくていいや。怒られたら……ドンマイ

先生「ここで、転入生の紹介だ！！さぁ〜入れ。」

私は、しなやかに入った。

未来「初めまして。愛原 未来です。よろしくお願いしますー！。」

未来は、偽笑顔で言った。

男子達は「かわいい〜」と言っており……

女子は「かっこいい」と言っている。

未来は、内心あきれている。めんどくさい。

私は、ある人を探していた。

沢田綱吉だ。

見つけた。しかも目合っちゃた。

ツナ（えっ・・・今俺を見た??そんなことないかあ。）

獄寺「あのやろっ・・・10代目を見て!!!10代目!!!敵かもしれ
ません!!!。」

ツナ「獄寺君落ち着いて・・・敵じゃないよ・・・たぶん。」

なんか言ってるな。私のことか!!!

先生「えっ・・・と愛原は・・・沢田の隣だ!!!。」

未来「わかりました。ありがとうございます。」

やった~~~~ツナの隣だ!!!

ボンゴレファミリーに会うー!! (後書き)

いい所ですが・・・次回です。

ターゲットになる！！

未来は、ツナの隣に座った。

ツナの隣は、山本。間を挟んで隣が、獄寺だ。

ツナ「よろしくね。愛原さん。俺沢田綱吉。」

未来「あっ・・・うん・・・よろしくね。

わからないこと・・・あるから・・・よろしく。」

未来は、まだ信用できていないので・・・途切れ途切れになってしま
す。

獄寺「おい！！おまえ・・・10代目になんて事を言う！！謝れ！！」

獄寺が、怒るのでめんどくなくなってしまった。

こっちが、せつかく答えたのに・・・

未来「ごめ・・・ん・・・ツナ君・・・こんな私で・・・

”ボンゴレ10代目”に勝手に話しかけて・・・」

私は、はっきりわかるように言った。

ツナ（なんで愛原さん・・・ボンゴレのこと知ってるの！！）

あたりまえじゃん！！と心の中で言う。

獄寺「おい！！あとで屋上に来い！！」

赤ちゃんに会うー！！

やっと授業が終わった。

未来は、さつさと屋上へ行くこうとすると、

男子A「愛原さんって彼氏いる??好きなタイプは??」

女子A「愛原さんかつこいいよね!!どこ出身??」

未来「あの・・・困ります・・・用事あるんで・・・ごめんね」
ニコツ」

未来は、人をよけながら出て行った。

未来が、出て行ってもまだクラスは、うるさい。

未来は、並中のだいたいの場所は、知ってるので迷わない。

屋上についた。

かなり急いできたので、息が上がっている。

屋上には、沢田綱吉、獄寺隼人、山本武、それに・・・赤ちゃんのり
ボン。

未来「ハア・・・ハア・・・ごめん・・・待った?」

まるで、デートの待ち合わせの言葉見たく言った。

ツナ「愛原さん、未来でいい。」・未来ちゃん待ってないよ。」

獄寺「お前！！！！また10代目に向かって！！！！その態度直せよ！！！！」

また・獄寺が騒いでるよ。ああ〜うるせ〜

山本「まあまあ、落ち着けて獄寺。」

獄寺「うつせえ！！野球バカお前は、黙ってる！！」

いつまで続くんだろうって思っていた。

沢田を見ると、困っている。

本当に、ボスなんだろうか？思ってしまう。

リボーン「お前ら静かにしろ。俺達は、こいつに話があるんじゃないのか？」

リボーンが、言うともみんなは、黙った。

未来「かわい〜赤ちゃんだ！！！！この子ツナの弟？？」

未来は、あえてリボーンの事をバカにした。

リボーン「俺は、赤ちゃんじゃね・ヒットマンだ！！（カチャ）」

リボーンは、未来に向けて銃を構えた。

ツナは、おどおどしてる。

ツナ「未来ちゃん、危ないから、下がってリボーンも、銃をしまえ
！」

そうすると・・・リボーンが未来に、向けて撃った。

赤ちゃんに会うー!! (後書き)

長いですが、読んでくれてありがとうございますー!!

アルコバレーノ！！

ツナ「未来ちゃん！！危ない！！」

ツナにいわれたが・・・避けない。

獄寺、山本も、リボーンの行動が、突然だったのか、動けない。

未来は、弾を素手でとった。

この行動に、みんなビックリしている。

未来「危ないなあ、ツナちゃんと赤ちゃんの教育してる??」

未来は、未来が見えるので、このことは予測していた。

さらに、殺気を一割出しているだけなのに、みんな顔が、青い。

リボーン「未来・・・お前ファミリーに入らないか？」

リボーンが、未来に向かって言うてくる。

未来「何ですか？私ボンゴレはいりたくない。

確かに、ツナたちは、すごいよ。

”骸を倒すし、ヴァリアーに勝つし、10年後に行つて、百
蘭倒すし、

シモンにも勝つて”ホントに、すごいよー!!」

みんなは、ビックリしている・・・もちろんリボーンも。

今までであったことを、未来は、すべて知っている。

リボーン「未来・・・お前何者だ・・・答える!!」

リボーン発言に、みんなは、我に帰った。

獄寺「そうだよ!!リボーンさんの言うとうり、答える!!」

未来「私は、ただの一般人だよ!!ただちょっと知ってるだけ・・・」

みんなは、(ぜったい一般人じゃねよ!!)と思っている。

当然、未来は、心を読める。

未来「これを見ればわかるかな？」

私は、アルコバレーノだ!!」

未来は、おしゃぶりを見せた。

チエーンは、つけてるけど・・・虹色だ。

この中で、一番リボーンが、ビックリしている。

未来「じゃあね みんなまたね!!」

未来は、屋上を去った。

アルコバレーノ！！（後書き）

この話は、まだ未来は、本心を出していません。

未来の本心は、これからです！！

アルコバレーノは、ロックに頼まれてなりました！！

何者??

未来が、屋上から去った後・・・

ツナ「嘘だろ・・・未来ちゃんが、アルコールノ!!」

ツナが、大声を出していった。

リボーン「うつせえぞ。俺もビックリしたぜ。虹色のアルコールノなんて聞いたことないぞ。

あいつ何者なんだ・・・」

リボーンが、言つと、獄寺が急に、走り出した。

ツナ「ええええ!!!!獄寺君急にどうしたの!?!」

獄寺「10代目!!俺あいつの後、追ってきます!!何者が調べてみます!!」

獄寺は、そういつて屋上から、去っていった。

山本「おもしろいなあ!!いつちよっ俺も行くか、じゃあなツナ。」

山本も、獄寺のあとを、ついて行った。

ツナ（ええええ!!!!なんでみんな行っちゃうの・・・）

リボーン「お前も、ボスなんだから愛原のこと、調べて来い（ゴン）

」

リボーンは、ツナの頭を蹴った。

ツナ「わかったよ、行けばいんだろ、行けば！」

ツナも、獄寺たちの後を、追った。

リボーン「俺も、調べるか・・・」

リボーンは、誰もいない屋上で、笑ってた。

ナンパにあう!!

そのころ、未来は・・・

未来「おっ!! やっぱりみんな私のこと、調べるんだ!! 楽しみ〜

」

未来は、歩きながら未来を見ていた。

未来は、家に帰っていると、

男子A「これからどうするいい女いないしなあ〜」

男子B「確かにいないなあ〜おっ!! あの子可愛い子だ!!」

男子A「ほんとだ!! ナンパしようぜ!!」

未来は、その人達を見ていた。

その人たちが、未来に寄ってくる。

男子A「ねえねえ〜君。可愛いねこれから暇?」

未来は、おびえたフリをしながら。

未来「えっ・・・私・・・可愛いですか?・・・そんなの・・・
困ります。」

未来は、泣きそうな顔をした。

男子達（「何この子めっっちゃ可愛い!!」）

男子B「可愛いよ!!泣かないでね。」

男子達は、おどおどしている。

未来「ありがとうございます・・・暇ですけど・・・」

未来は、だんだん笑顔に戻ってきた。

男子A「ホント!!じゃあ俺らと遊ぼうよ!!」

男子が、うれしそうに言った。

未来「いいですけど・・・」君達何群れるの。「・・・えっ!!」

未来は、声が聞こえたところを、向いた。

その声は・・・雲雀 恭弥だった。

ナンパにあうー!! (後書き)

やっと、舞雀登場ですわ……
……まじ、長……

雲雀 恭弥に会う!!

男子達は、雲雀を見て脅えている。

雲雀「咬み殺す」

雲雀は、トンファーを、男子達を殴った。

男子達「くおおおお!!!!」

男子達が、吹っ飛んだ。

雲雀が、こつちを見て笑った。

雲雀「次は、君だよ。」

殺気を放っている。

未来も笑って。

未来「えっ……困ります……私……戦えないし……」

未来は、フリをしているが、まったく雲雀は、気にしてない。

雲雀「いいから……咬み殺されなよ。」

雲雀が、向かってくる。

未来は、ため息をついて。

未来「いや・・・怖・・・くない・・・」

未来の発言に、雲雀はビククリした。

未来は、雲雀の攻撃をすべてよけている。

そこに、ツナたちが来た。

ツナは、雲雀の攻撃をすべてよけているのを見て、びくくりしている。

ツナ「すごい・・・ぜんぶよけてる・・・」

未来は、ツナたちが来たので、一歩下がった。

未来は、小声で雲雀に向かって、

未来「ごめんね・・・もう終わりだよ・・・」

と、いって未来は、逃げた。

ツナたち「あっ！！にげた！！」

雲雀「ちっ・・・逃げられた・・・眠いからから帰る。」

雲雀も、帰っていった。

ツナ（なんで俺達が、来たから逃げたんだ？）

ツナは、心の中で、疑問に残った。

未来の好きな人！！

未来は、もうダッシュでツナたちから逃げてきた。

未来「危なかった〜絶対戦つてるところ見せれないし・・・リボーンに、目つけられたら、やばいし」

未来は、知らなかった・・・もうリボーンに、目をつけられていることを。

ロック「おい、未来。」

突然声がした。

周りを見ているが・・・誰もいない。

ロック「当たり前だよ！！俺は、お前の中にいるから・・・みえねえよ。」

未来「ああ〜そうか。で、何の用？」

突然、殺気を出した。

ロック「殺気出さないください。お願いします。」

なぜかロックは、泣きそうな声で言った。

未来は、そこまで悪魔ではないと、思い・・・殺気を抑えた。

ロツク「あの・・・未来様。何でそんなに、沢田たちと仲良くしないんだ。」

せつかく、REBORN!の世界に来たのに?」

未来は、ちよつと困った顔で、

未来「ツナたちと仲良くしたいけど・・・私は、あいつらよりも、もっと別の人に、会いたいの!!」

ロツク「誰だよいったい。お前が、そんなに会いたい人って?」

未来は、顔を赤くして

未来「それは・・・その・・・ええ!!言うの・・・?」

ロツクは、未来の顔を見て、顔を青くした。

ロツク（かわいい・・・だけど、こんなに人によって、態度変わるのかよ。）

未来「なんか言った!!」

未来は、突然殺気を出した。

ロツク「いえ・・・なんでもありません。誰だよ!!」

未来「わかった言う・・・その、ヴァ、ヴァリアーなんだけど・・・
・ / / / / /」

ロツク「ヴァ、ヴァリアーだと!!お前ヴァリアーが好きだったの

かよー!!」

未来「私ね、その・・・好きな人の前では、途切れ途切れに、なっちゃうの・・・」

ロック「だから、沢田たちの時も、あんなったのか!!なるほど!!」

ロックは、すべてわかった。

ツナたちと話す時、あんなにおどおどしていたのが、わかった。

未来「これ秘密だからね!!絶対だよ!!」

っと、言って、家に帰った。

未来の好きな人！！（後書き）

作者「未来は、ヴァリアーが好きだったとねえ」

未来「べ、べつにいいでしょ！！ヴァリアーがすきでも！！／／／／」

作者「特に、誰が好きなんですか？」

未来「えっ・・・誰が・・・好き？・・・そんなのいえない！！」

作者「じゃあ、ヴァリアーの人に会わせます。」

未来「会ったら・・・死んじゃう・・・」

作者「皆さん！！未来は、誰がすきなんでしょうか？

会ってからの楽しみ！！」

宣戦布告！！

次の日の朝・・・

未来「やば〜い！！遅れる！！」

未来は、朝から遅刻になりそうだった。

今、8：10分

学校に着いた・・・8：15分

未来「セーフ！！あれ？？誰もいない！！ああ〜今日学校休みだった！！」

未来は、てっきり学校があるかと思った。

未来は、歩いており、屋上へ向かった。

屋上について・・・

未来「うう〜気持ち〜」

体を、伸ばしていると、

ツナ「未来！！何でここにいる！！」

えっ・・・と思ひ見てみたら、ツナたちがいた。

ツナは、ハイパーモードツナになっており、額には、死ぬ気の炎があった。

未来「何やってるの???みんなそろって。」

未来は、平然と聞いてきた。

リボーン（なんでこいつびっくりしないんだ）

未来は、心を覗いていたので笑っている。

リボーン「こいつらの、修行をしている。」

未来「へえ〜そうなんだ。」

未来は、興味なかった。

自分より弱いからだ。

リボーン「おい、愛原!〜こいつらの相手になってほしい。」

みんなビツクリしている。

未来はため息をついて

未来「いいよ　でも、死んでも知らないよ。」

未来は、殺気を出しながら言った。

リボーン（こいつは、すげえな。）

未来は、一步前に出て、

未来「ここにいる、みんなに来ていいよ。私、勝てるから!」

みんなは、その言葉に、青ざめている。

未来「なに? 怖いのか? あの”ボンゴレ10代目ファミリー”が脅えてるなんて・・・アツハハハハ!!」

獄寺「貴様!! バカにしゃがって!!」

リボン「うるせえぞ!! 始めるぞ。」

静かになった。

未来「じゃあこのコインが、床に着いたらスタートね」

未来は、コインを、弾いた。

宣戦布告！！（後書き）

これから、戦いですよー！！
未来は、戦いになると、我を忘れます。

戦い始まる！！

コインが、床についた。

先に、攻撃してきたのは、獄寺だった。

獄寺「カンビオ・フォルマ形態変化」

獄寺は、姿が変わった。

未来「へえ〜これがね・・・どんなの？」

獄寺「瓜ボム！！」

瓜が、こっちに来た。

未来は、避けようとしなない。

未来は、くらった。

だが、傷一つもついてない。

未来「なんだ〜これだけ・・・つまんない」

獄寺立ちは、ビックリしている。

未来「ねえ・・・終わりにしていいかな 飽きたし・・・」

未来は、そう言って・・・獄寺たちに、向かってくる。

獄寺は、未来の行動が、早くて見えなかった。

獄寺「なっ！！はええ！！！」

未来は、獄寺の前に立ち、一瞬笑って、蹴った。

未来「一人終わり！！二人目いつきまーす！！！」

そういつて、次は、山本の前にいた。

山本（なんだこの速さ・・・）

山本は、反応できなかった。

山本も蹴りで、飛んでいった。

未来「二人終わり。三人目」

笹川の前に、立つ。

笹川も飛んでいった。

未来「みんな弱すぎ！！最後だね・・・ツナ！！！」

今度は、ツナから行った。

もうそこには、未来はいなかった。

ツナ（どこだ？）

ツナは、探してる。

未来「後ろだよ。うしろ・・・」

未来は、ツナの後ろにいた。

未来「これで終わった。」

ツナも、飛ばされた。

リボン「俺達の負けだ。お前強いな。」

未来「どうも！じゃあね！！」

未来は、いなくなった。

戦い始まる！！（後書き）

すいません。あまりバトルシーンうまくできないので・・・省略しました。

考える！！

未来は、家に帰っており、

未来「みんな弱すぎ・・・せっかく楽しみにしてたのに！！」

ため息をした。

未来の、目の前にロックがあれわれた。

未来は、急に殺気を出した。

ロック「殺気引っ込める。しょうがないだろ、未来がつよすぎ。」

未来「お前いつから、偉くなった！！」

ロック「ごめんなさい。そうだイタリアに行つて、ヴァリアーにあつてこいよ！！」

ロックは、いつも以上元気になった。

未来「えっなんで・・・イタリア・・・ヴァ、ヴァリアー・・・に、会つてこいだと・・・／／／／／」

未来は、顔を赤くしていった。

ロック「別にいいじゃね。行こうぜ！！」

未来「えっ・・・でも学校は・・・」

ロック「病気ってことで。いーっ！ー！」

未来「わかった。準備する。」

未来は、自分の部屋に行つて、準備し始めた。

ロック（俺が、ぜんぶ手配してやる）

未来たちは、早速空港に行った。

考える！！（後書き）

次回、ヴァリアーです！！
未来が、好きな人がわかります！！

イタリアー！

未来は、今イタリア行きの飛行機に乗っている。

あれから数時間後、イタリアに着いた。

未来は、体を伸ばした。

未来「ああ〜やっと着いた！！飛行機の中最高〜だよー！！」

未来は、飛行機の中で、曲を聴いていた。

もちろん好きなキャラクターのキャラソンだ！！

ロック（おい未来ー！！ヴァリアーの本部に着いたら、部下をのっ
て、侵入しろ。）

未来は、心の中で頷いた。

未来は、ヴァリアーの本部に向かっていた、

未来（ここであつてるの！？全部森じゃん！！）

未来は、後ろから、飛んできたものをとった。

見たら、ナイフだった。

未来は、確信した。

ここは、ヴァリアーだ。そしてナイフの主は……ベルだ！

ロック（何見つかったんだよ！早くのつとれ）

未来は、走った。

ベルは、追いかけるのをやめた。

ベルは、通信機を出した。

ベル「しししつ隊長侵入者発見！！そっち向かった」

？「うゝおゝおい！！何やってるんだよゝちっ、しょうがね。」

ベルは、切った。

ベル「誰だよ……あいつ……」

ヴァリアーに会うー！！

未来は、ヴァリアーの警備隊を見つけた。

未来（気絶させないと・・・めんどいな〜あっー！！ロックやってー）
いー！！）

未来は、ロックをパシリした。

ロックは、どンドン倒していく。

未来「これでいいよねー！！のっとてる間は、楽だなー！！」

未来は、一人の警備隊の中に入った。

未来「へえ〜こいつレヴィのぶかなんだ・・・かわいいぞ〜」

未来は、のっとった相手の、情報がわかる。

未来は、庭に向かった。

庭に着いた。

未来は、自分になった。

未来「やっぱりー！！自分の体が一番」

A「見つけたぞー！！侵入者だー！！」

未来は、笑顔で逃げた。

未来（こいつらうるさい！！）

未来は、近くにあったドアに、逃げた。

？「うう おおい！！貴様が、侵入者か！！」

未来は、振り返って見たらヴァリアーのみんないた。

未来「えっ・・・聞いてない・・・」

？「うう おおい3枚におろしてやる！！」

うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！うるさい！！

？「おい、てめえ何者だ」

睨まれたよ・・・ぜんぜん怖くないけどね

未来「えっーーーと・・・一般人です！！」

うわあくみんなの視線が、痛い。

？「何バカなことやってんだ！！」

この人ひどくない・・・人をバカだつて！！あとで、殺す。

？「ふん、かつ消す。」

ベル「ちよつボス！！まずいって。」

？「ムムム、やばいね。あいつ死んじゃうよ。」

みんな戸惑ってるね。おもしろい！

未来「貴方が、ボスですか？コワイ！！」

笑いながら言った。

未来は、急に顔を、無表情にした。さらに、殺気を出した。

ヴァリアーのみんなは、未来の行動にビックリしている。

？（何だこいつ。急に殺気を出しやがった。）

未来「私と、殺りますか？ヴァリアーの皆さん」

また、笑顔で言った。

？「いいぜ！かす鮫つれてこい」

未来は、殺気を抑えた。

ヴァリアーに会う！！（後書き）

未来は、最初は、恥ずかしかったけど・・・戦いモードのスイッチ
がはいりました！！

ヴァリアーと戦うー！

未来が、歩いていると、

？「お前、名前は！！」

未来「えつーと・・・ルビー・ルミネ・未来だよ！！」

スクアーロ「俺は、スクアーロだあ！！」

未来は、無視した。

未来は、次に赤ちゃんを見た。

マーモン「ムムム、僕は、マーモン。」

未来は、笑った。

未来（今は、喋りたくないし）

スクアーロから、他の人の名前を聞いた。

未来は、ポケットから、携帯を出し、イヤホンをつけた。

スクアーロ「お前、曲聞くのか！！」

未来は、頷いた。

未来が、聴いてる曲とは・・・ベルの「bloody prin

c e」だ

未来は、普段から、曲を聴いている。

ベル「着いた。しししっ、楽しみ」

XANXUS「来たか・・・お前の相手は、カス鯨とレヴィだ・・・」

未来「ねえねえ、XANXUSさあ、ホントに、こいつらでいいの？」

XANXUS「ああ・・・」

未来は、笑った。

未来「すぐ終わるなあ」。

スクアアロ「すぐに終わるのは、てめえだ!!」

スクアアロが、剣を振って、近づいてくる。

未来は、それをよけスクアアロの後ろに立ち、蹴った。

スクアアロは、飛んでいき、壁に合った。

レヴィは、最初に終わらせてある。

未来は、剣を向けた。

スクアーロ「俺の負けだ!!」

XANXUS「おもしれ〜気に入った。かす鮫こいつを、入れるぞ!!」

未来「ありがとうございます!!頑張りま〜す。」

未来は、その部屋から、出て行った。

ネックレス・・・

今は、朝・・・

未来「ふあゝよく寝た！！今は・・・10：45分」

未来は、時間を確認すると、着替えて部屋を出た。

ロビーに行ったが、誰もいない。

未来「あれ誰もいない・・・なんでえ？」

未来が、困っていると、

スクアール「お前今起きたのがあ！！」

あさからつるせえなあゝと思いつつながら、部屋をでた。

自分の部屋に着くと、首から掛けていたネックレスを見た。

そのネックレスを見ると、悲しくなる。

でも・・・これは見ないといけないもの。

忘れてはならないこと。

未来は、気づくと泣いていた。

未来は、誰か来たらいけないと思い、涙を拭いた。

そのネックレスを首に戻し、見えないようにした。

絶対に、見せられない。

必ずこの記憶は、忘れないよ……

未来は、心の中で、誓っていた。

未来は、我に帰ると、誰かが見ていると、思った。

未来「誰!!そこにいるのは。」

ドアは、開いた。

ドアから見ていたのは……

ネックレス・・・（後書き）

ちよつとシリアスになりました。

皆さんは、わかりましたか？

ネックレスのこと。

ネックレスに映っているものは、未来の秘密にかかわります。

そこにいたのは？

ドアのところにいたのは、マーモンだった。

未来は、ため息をついた。

未来「なんだマーモンかぁ、良かった。」

マーモン「未来、どうして泣いていたんだ？」

マーモンは、聞いてきた。

未来「えっ……マーモンは、そんなこと知らなくていいから……」

未来は、悲しそうに言った。

マーモン「どうしても知られたくないんだね。」

未来は、頷いた。

未来「マーモン……このネックレスはね、大切な人から、もらったの。」

でも、私は、その人に、酷いことをしてしまった……」

未来は、ネックレスを握り締めながら、言った。

未来「ごめん……こんなところ、他の人には、見せられないよ。」

「マーモンでよかった」

未来は、泣きやみ笑っている。

「マーモン」未来、話がある。アルコバレーノについてだ。」

未来「いいよ。話してあげるけど・・・最低限ね。」

未来は、ネックレスをしまった。

未来「じゃあ、何から話そうか!!」

虹のアルコバレーノ使命！！

未来「これを見てわかるよね。ちょっと訳があって、鎖はとれないよ。」

未来は、鎖がついている、虹色のおしゃぶりを、マーモンに見せた。

未来は、マーモンが、おしゃぶりを見たのを確認して、話を進めた。

未来「このおしゃぶりは、リングにもなるの。」

未来は、おしゃぶりをリングに変えた。

マーモン「ムムム、これはすごいね。」

未来「そうでしょ！虹色の使命は、

（それぞれの守護者達を、見守ること。）だよ。」

未来は、低い声で言った。

マーモン「へえ〜そんなんだ。未来ならできるんじゃない。」

未来「ありがとう。これで話すことは、ないから。」

マーモン「わかったよ。じゃあね。」

未来は、マーモンに手を振った。

未来「本当は、もう一個使命あるんだけどね。(ニコッ)」

この声は、外に漏れることなく、消えた。

最後に残ったことは、笑っている未来の顔だった。

虹のアルコバレーノ使命！！（後書き）

実は、マーモンにいったことは、本当の使命じゃあないんです！！

（これも本当の使命だけど・・・）

未来の、本当の使命は、必ずわかります！！

未来の設定（追加）！！（前書き）

ここからちょっと話が変わります。
絶対に読んでください！！

未来の設定（追加）！！

今日は、学校が休みの土曜日だ。

ロック「大変だ！！未来！！」

未来「どういうこと！なんなの！！」

ロック「この世界に、お前のお母さんがいたんだ！！」

未来「えっ……どういうこと……」

ロック「お母さんの名前は、エメラルド・ルミネだ！！」

未来「じゃあ私の名前は？」

ロック「イタリアでの名前は、ルビー・ルミネ・未来だ。」

未来「わかった。」

ロック「今度、エメラルド主催のパーティーがある。

そこは、ボンゴレやヴァリアーも出る。

有名なマファアがいっぱい来るんだ。もちろんお前もだ！

「！

未来「えっ！！そんな。」

ロック「そこで、母親を見るんだな。」

未来「そんな・・・まいつか」

そうして話は終わった。

パーティ前日！！

パーティの前日、

未来「明日だっけ、エメラルドのパーティ・・・だるいなあ」

未来が、呟いていると、ドアがなった。

未来「誰？そこで用件を言って。」

ベル「しししっ俺。ボスが、集まってる。」

未来「OK。今すぐいく。先行つてて。」

未来は、ベットから降り、着替えて部屋を、出た。

未来「遅れてすみませーん。話って何ですか？」

未来は、何で呼ばれたのか、知っているからだ。

スクアーロ「うゝおゝおい！おせえぞ」

未来は、無視をして、席に座る。

スクアーロ「無視すんじゃないねえ、」

未来「ねえねえ、何の話？ボス」

未来は、XANXUSを見ながら言った。

XANXUS「明日、エメラルドのパーティがある、そこにいくぞ」
ヴァリアー全員が、ビククリしている。

ベル「まじかよお」

未来「ねえ、なんで？」

未来が、ベルに聞いた。

ベル「エメラルドは、最強のマフィアだ。そいつに会えるなんて、
相当ないぜ。」

未来「へえ、そうなんだ」

XANXUS「今日は、解散だ。」

未来は、楽しみにしていた。

母親が、どんな人か。

パーティーへ！！

未来は、今、ヴァリアー専用の車に乗っている。

みんなそれぞれのことを、やっている。

車が、止まり、外に出ると、メツチャでかい城だった。

未来「でかい！！！」

興奮している。

未来が、ヴァリアーのなかで、一番に入った。

中を見ると、ツナたちもいた。

ベル「しししっ未来、はしやぎすぎ。」

未来「ハイ！」

適当に返事をした。

未来「ねえねえ、スクアアロ。エメラルドさんどこ？」

未来は、わからないので、聞いた。

スクアアロは、指をさした。

スクアアロ「あいつだ」

未来は、ビックリした。

なぜなら、スタイルも抜群で、かなりの美人だった。

ヴァリアーの全員で、エメラルドのところ行く。

未来「どこ行くの？」

マーモン「エメラルドのところ行くんだよ。あいさつだよ」

話しているうちに、着いた。

エメラルドは、気づいてこっちを向いた。

エメラルド「ヴァリアーの皆さん、来ていただきありがとうございます。ごめい
ます。」

今日は、楽しんでいってください。」

ボスが、挨拶をしているので、違うところにいこうとすると、

エメラルド「貴方、新しい人？名前は？」

急に、話かけてきたので、後ろを向く。

未来は、丁寧に挨拶をして、

未来「初めまして、エメラルドさん。ルビー・ルミネ・未来です。
呼んでいただきまことに、ありがと

「ついでいます」

エメラルドは、驚いている。

エメラルド「貴方が、ルビーさんなのね。」

すると、エメラルドが、小声で

エメラルド「いらっしやい。私の娘。」

未来は、驚いて離れてしまう。

ベル「どうした？」

未来「なんでもない」

未来は、あせった。

ここで、ばれたらたいへんだ。

周りが、暗くなった。

あいさつが、始まるのだ。

エメラルド「今日は、来ていただきありがとうございます。ついでいます。」

挨拶が、始まった。

未来は、皆とはなれて、外にいた。

未来が、ゆっくりしていると、後ろから男の人が、話しかけてきた。

セディ「貴方様が、ルビー・ルミネ・未来様ですね。私は、セディです。よろしくお願いします。」

未来は、後ろを向いた。

その人は、黒いスーツを着ていて、イケメンだ。

未来「あの……私に何か用ですか？」

セディ「はい。エメラルド様から、命令があつたので、貴方を連れて行きます。」

未来は、驚いて、声が出ない。

セディは、未来のそばに行き未来の首のところを、手で打った。

未来「っ……」

未来は、意識を失った。

パーティへ!! (後書き)

なんと新キャラです!!

セディは、執事です。

これから、未来はどうなるのか・・・

次回お楽しみ

パーティへ〜中〜(前書き)

前の続きです。

パーティへ〜中〜

未来が、目を覚ますと、部屋にいた。

未来「どこどこ……」

未来が、うろろろしていると、

セディ「お目覚めですかルビー様。これからルビー様は、舞台に立つてもらいます。」

未来「なんで……立つの……おかしいから……それに、皆は、私
が、娘だつて知らないでしょ……」

ふざけないでよ……」

未来は、大声を出して、訴えた。

セディ「大丈夫です。もう準備できてます。服を見てください。」

言われたとおり、服を見た。

未来「何これ……」

服は、ドレスだった。

白のドレスに、柄が入っており、柄は、バラだった。

腕には、薄ピンク色の手袋だ。

セディ「大丈夫です、ルビー様。今日は、皆様に、挨拶するだけです。」

未来「わかった。娘って言うだけだよね・・・」

未来は、俯いていった。

セディ「はい、そうです。じゃあ行きましょう、ついてきてください。」

未来は、頷いて、セディの後に、ついていった。

未来（こいつの心が、読めない。どうしてだ！！）

未来が、いらいらしていると、セディがとまって、

セディ「つきました、ルビー様。いってらしゃいませ。」

セディが、礼をする。

未来は、笑顔で、口パクをした。

「あ・り・が・と・う・ね」

未来は、舞台に立った。

皆が、ビックリしている。

ヴァリアーや、ツナたちも驚いている。

未来「皆様今日は、来ていただきありがとうございます。」

私から、お話があります。

私の名前は、ルビー・ルミネです。」

会場にいる人たちが、ざわざわしている。

未来「私は、エメラルド・ルミネの、娘です。」

会場が、一瞬で静かになる。

ある一人の、男性が大声で、

男「嘘だ！！だって、エメラルド様は、子供などいない！！」

ましてや、こんな弱そうな女が、娘なわけない！！」

未来は、その言葉で、頭にきた。

未来が、言葉を言おうとすると、その男性が倒れた。

未来「なんで・・・」

その男性の後ろに立っていたのは、セディだった。

セディ「ルビー様を、侮辱する者は、許しません。」

セディは、手を上げ、近くのメイドたちに、男性を運んでもらって

いる。

エメラルドが、未来のそばにいき、

エメラルド「ルビーは、ちゃんと私の娘です。娘を侮辱するなら、私達は、その者を、殺します。」

これで挨拶は、終わりだね。皆様楽しんで行ってください。」

未来と、エメラルドは、退場していく。

未来は、部屋に戻った。

未来は、その場に倒れ、泣いた。

未来「やだよ・・・誰か・・・たすけ・・・て・・・」

最後の言葉は、声にもならなかった。

未来は、泣きやみドレスを、脱いで、違うドレスを着る。

未来「戻らないと・・・」

未来は、何もなかったように、会場に戻る。

パーティへの中 (後書き)

未来は、何で泣いたのでしょうか・・・
未来の、秘密にかかります。

パーティへ〜終わり〜

未来は、会場に戻ってきたが、ヴァリアーや、ツナたちには、会いたくない。

それは、舞台での挨拶のこと、母親のことなど、絶対に聞かれる。

未来は、それが嫌で、会わないようにしている。

未来は、これからどうするか、考えていた。

未来（このままヴァリアーに、いけないかも……

あるいは、行っても殺されるかも、知らない……そうしたら、私は、皆を殺してしまう。

ツナ達もどうだ私を、受け入れてくれるだろうか。 わから
ない……

そういえば、昔も会ったよなこんなの……

未来「笑っちゃうよ……」

未来は、近くのジュースを飲み、また外に行った。

外に出ると、風が涼しかった。

まるで、私を見て、笑っているかもしれない。

後ろから、誰かが走ってくる音が聞こえた。

セディ「ルビー様。お部屋にお客様が来ています。お部屋に戻って
ください。」

セディだった。

未来（客って、ヴァリアーか、10代目だろどうせ・・・）

未来は、表に出さない。

未来「わかった。じゃあ行ってくる。」

セディは、未来に向かって、礼をした。

部屋を空けると、そこには、スクアールと、マーモンと、ベルが
いた。

未来、ため息をついた。

スクアール「うっおっおい！ため息つくなあ」

ベル「つか、未来さあ、なんで隠してたんだよ。」

未来（やっぱりかあ）

未来「別に、隠してたわけじゃあないけど・・・」

未来は、なんでわたしが、せめられてるみたいなの・・・

マーモン「落ち着きなよ、多分未来は、初めてエメラルドを見たんだよ。」

未来は、ドキッとした。

未来（何で知ってるの！！）

ベル「ししっしっなんでだよ」

未来（やっぱりそうだよね！！私言っでないし）

マーモン「だって……それは……」

パーティへ〜終わり〜（後書き）

最近長いですけど、我慢してください。
お気に入り登録と、感想おねがいします。

エメラルドとの関係！！

マーモン「だって・・・それは・・・未来の反応を、見ればわかるよ。

未来は、エメラルド母親に会うのに、エメラルドどうして、母親について、

あんなに、聞いてきたのが不思議だね。」

未来は、マーモンの話を、否定できなかった。

全てあっていたからだ。

未来「・・・っ」

未来は、部屋から出て行った。

自分のせいで、母親の事がわかってしまった。

未来は、走りながら叫んだ。

未来「ちくしょー！ー！ふざけんなよ！ー！！」

未来の声は、城の中に響いた。

未来は、泣いた。

悲しくもない、苦しくもない、ただおもいきり、泣きたかった。

泣いている、未来の元に、セディがやってきた。

セディ「大丈夫ですか、ルビー様。」

未来「ルビーって言わないで。私は、未来よ……」

母から、取った名前なのに……

なんで……皆は、ルビーって言うの。おかしいよ!!」

未来は、必死に叫んだ。

声にならないほど、叫んだ。

セディ「落ち着いてください、未来様。」

わかってはいますが、未来様は、あの大勢のマフィアの前で、挨拶するということは、

時期ボスの挨拶ということですよ。貴方は、エメラルド様の次にボスです。」

未来「わかってるよ。そうしたら、ヴァリアーともお別れだね。」

アツハハハハハハハハ!!」

未来は、大声で笑った。

セディ「違う部屋が用意されています。そちらに行ってください。」

未来「うん、ありがとう。あと、もし私が、狂ったらその時は、私を殺してね」

未来は、今まで見たこともない笑顔で、言った。

セディ「わかりません。私は、執事であり、敵ではありません。

でも、もしもの時があればですけどね・・・」

未来は、去っていった。

エメラルドとの関係！！（後書き）

更新遅くなつてすみません！！

テスト勉強があつてできませんでした。

感想お願いします。

少女と逃亡！！

パーティが終わった、次の日……

？「はあはあ、早く逃げないと、つかまっちゃう。」

少女は、何者から逃げていた。

男「早く捕まえる！！」

男達の声が、聞こえてくる。

逃げないと、つかまって外に、出れなくなる。

それだけは、嫌だ。

少女が逃げると、誰かにぶつかった。

ツナ「あついたた。ごめんなさい。」

ツナがぶつかった相手は、ツインテールで、帽子を深くかぶっており、顔は見えない。

少女「こちらこそすいません。油断してました。」

少女は、礼儀正しかった。

ツナは、空が、うるさいと思って、見たら……ヘリコプターが、何台も飛んでいる。

ツナ「なにこれ！！何でこんなにヘリコプターとんでるの！！！」

ツナは、見て騒いでる。

少女「早くここから逃げて！！危ない！！！」

少女は、ヘリコプターから、飛んできた銃弾をツナたちから守った。

リボーン「どういうことだ、なぜ狙われてる。」

リボーンは、山本の肩に乗り少女に問いかけた。

少女「私が狙われているだけだから。あいつらは、私を殺そうとしているの。」

少女は、走りながら言っている。

獄寺「お前何言ってるんだ！！そもそもお前は誰だよ！！！」

スフィア「私は、スフィアだよ！！よろしく

ともかく、早くここから逃げよう・・・家近くにあるから来て！！！」

スフィアは、そう言ってスピードを上げた。

少女と逃亡！！（後書き）

変なところで終わりですけど、すみません。

スフィアの家族！！

スフィアの家についた。

そこは・・・未来と同じ家だった。

ツナ「どういうこと・・・なんでルミネ家の家に・・・」

ツナたちは、息を呑んだ。

スフィア「だって私一応ルミネ家の人間だしね。」

スフィアは、不思議そうな顔でいった。

ツナ「ええ〜〜ってことは、未来ちゃんの妹！！」

スフィア「早く家に入って。」

家の中に入ると、玄関には、セディがいた。

セディ「いらっしやいませ、ボンゴレ10代目ファミリー様、ネクス様」

ツナは、その言葉を聞いて不自然に思った。

ツナ（なんでスフィアって言わないんだ）

獄寺「そいえば、この執事の名前聞いてないですよ！！10代目！！」

セディ「自己紹介が遅れました。」

私の名前は、セディ・ファーストです。

エメラルド様兼ルビー様の執事をやっています。」

セディは、一礼した。

ツナ「よろしくお願ひします。」

ツナたちも、一礼した。

セディ「今回は、何のご用件で。」

スフィア「あのね、私を狙ってくる人たちに、追われているところを、お兄ちゃん達が、助けてくれたんだよ！！すごいよね！！」

スフィアは、元気な声で言った。

ツナたちが話していると、

エメラルド「誰か来ているの？・・・なんで貴方がいるの・・・」

エメラルドは、スフィアを見ていった。

エメラルド「早くそいつを追いつ出して！！顔も見たくない！！」

ツナは、スフィアを見た。

スフィアは、今でも泣き出しそうな顔をしている。

セディ「すいません。部屋に案内します。」

セディは、そういつて、ツナたちの下へいき、小声で

セディ「このことは、ルビー様に聞いてください。」

セディは、部屋に向かった。

スフィア「またね……おにいちゃんたち……後で」

スフィアは、ツナたちの背中を見ていった。

スフィアの家族！！（後書き）

スフィアは、なぜこんなにも、嫌われているかは、次回です

未来とスフィア！！

セディに案内された部屋は、部屋の中が、物凄く広がった。

ツナ「こんなところにすんでるなんて・・・」

未来「ツナたちじゃん！！おっひさ〜」

ここにつれてきたってことは、なにかあったでしょ？」

未来は、ベットから降りていつてきた。

ツナ「うん。スフィアの事なんだけど・・・」

未来「スフィア？・・・って誰？？」

皆は、驚いている。

山本「お前知らないのか？」

未来「うん。知らないよ・・・あっもしかして！！あのこの事か！！」

未来は、思い出した。

未来は、REBORNの世界に行く時に、たしか・・・

ロツクに、家族関係を見せてもらっていた。

未来「スフィアについて？私知ってることすくないけどなあ〜・・・

はつきり言っつてめんど・・・」

獄寺「おいてめえふざけてるんじゃないやね！！お前の執事に言われたんだよ。

お前に聞けつて！！」

執事「つて事は・・・セディかな？

ふざけるな！！面倒事任せるなよ！！

ツナ「おねがい未来ちゃん！！

スフィア見ると気になって。」

未来は、ため息をついた。

しょうがないなあ〜といいながら、ツナたちを、ソファに案内した。

未来「ここに座つて。」

スフィアは、本当は、ルミネ家の人なんだけど・・・

スフィアの血を調べたら・・・母の血が、35% 父の血が、65%なの。

代々ルミネ家は、母の血が、65%ないと、後継者と認めら

れないの。

ちなみに私は、80%、20%なんだけど。」

ツナ「何でそんなに、お母さんの血がないと、だめなの?」

未来「・・・それはね・・・」

未来の真実！！

未来「母の血が、なぜ必要かそれは・・・わかんない」

未来の、言った言葉で、一瞬シーンとなった。

沈黙の中、一番に口を開いたのは、

ツナ「ええ！！わかんないの！！」

ツナだった。

未来「だってそんなこと知らないよ！！」

未来は、心の中で、

未来（だってそもそも、私REBORN!の世界にいなかったし・・・
・しるわけねえよ！！）

心の中で、叫んだ。

リボン「なぜ知らないんだ・・・ふつうは、母親から聞くと、思
うんだか」

未来「だから知らないっていつてるでしょ！！」

山本「まあまあ、落ち着けて愛原も。」

言い争っていると、ドアがなった。

その場は、静かになった。

未来「はい、聞いてます。」

未来は、急に無表情になった。

セディ「すみません、お取り込み中。」

エメラルド様から、伝号です。

ネクス様のことは、もういいと、だそうです。」

用件を言い終わると、一礼して、出て行った。

未来「はあ〜これで、話は終わり。」

皆ここに泊まってたってね。

多分セディが、いると思うから、案内してもらって。

おやすみ〜」

ツナたちは、部屋を後にした。

未来の真実！！（後書き）

お気に入り・感想お願いします。

また日本へ！！

未来は、ツナたちが出て行ってから、ボーっとしていた。

未来（つままないなあ〜・・・なんか楽しいことあればいいのに・・・）

未来は、ため息をついて、ベットに倒れた。

ロック「お〜い、未来。今暇か？」

急に、ロックが前に出てきた。

未来「うん。てか、ちょ〜暇だよ。」

ロック「俺いいこと考えたよ！！日本に戻ろうぜ！！」

ロックは、楽しそうに言った。

未来「日本かあ〜・・・いいね！！確か明日が、皆解散だから〜私達は、今からいこ！！」

未来も、笑って返した。

ロック「準備できら言えよ。あとは、すべて任せろ！！」

未来「じゃあさっさと、お前が消える（ニコッ）」

未来は、笑っているが、目が笑ってない。

ロック「わかりました・・・」

ロックは、消えた。

未来「・・・また、日本かあ・・・楽しみ・・・」

未来は、ポケットから、写真を見ていった。

写真をしまつて、準備をし、部屋を出て行った。

久しぶりの学校！！

未来は、家に行き、荷物を置いて、出かけた。

未来「どこ行こうかなあ〜・・・暇だし、学校いくか。」

並中の前に、着いた。

未来「あれ？風紀委員長いないんだ・・・せつかく来たのに〜

もしかしたら・・・」

未来は、正門を、飛び越えて校舎の中に、入った。

未来が、真っ先に向かったのは、応接室だった。

未来「ハ口〜雲雀君元気だった？」

未来は、仕事をしている、雲雀に言った。

雲雀「君、誰？」

雲雀は、トンファーを構えている。

未来「あつ、そういえば、自己紹介してなかったですよね？」

並中の2-A組の愛原 未来です！！

前に、商店街で、会いましたよ。」

雲雀「君、なんで学校あるのに、制服じゃないの。」

未来は、自分の服を見た。

未来の服は、白のワンピースに、ネックレスを、見せている格好だった。

未来「アツハハハ・・・ごめんなさい？」

雲雀は、トンファーを振ってきた。

未来「ちよつ待ってよ〜」

雲雀「この前は、咬み殺せなかったから、今咬み殺す」

未来は、部屋を出て、外に逃げる。

未来は、後ろを向いて、

未来「いい加減に、諦めろ〜」

未来は、正門に、着いた。

未来「あっ！！そつだ閉まつてた・・・よし！！飛び越えよ〜」

未来は、飛び越えて、逃げた。

雲雀も諦めたようだ。

雲雀「面白そうだね・・・愛原 未来・・・」

雲雀は、未来の背中に向かって、笑っていた。

またツナたちと会う!?

未来は、雲雀と別れた後、商店街に、来てた。

未来「はあくもうツナたちこっちに、戻ってきたか……なんか会いそう……」

未来は、進む道に、会いたくない人が、いた。

未来は、みちを戻ろうとすると。

ツナ「未来ちゃん!!先に、戻ってたんだ。」

会ってしまった。

未来「うん……ちょっと用事があったから……」

未来は、言い訳を言った。

リボーン「ホントにそうなのか?」

未来「あ、当たり前じゃん!!」

リボーン「お前、嘘つくの下手だな。」

わかってしまった。

未来「すいませんね!!嘘つくの下手で!!」

未来は、反抗した。

山本「なんで、先に戻ってたんだ？」

未来「イタリアに、飽きたから、戻ってきた。」

山本「なんだ、そんなことかよ！！」

山本は、笑っている。

未来（なんでこんなに、笑っているんだ？）

心の中で、思った。

リボーン「俺達は、お前を探してたんだぞ。愛原 未来。

やっとお前の事がわかったぞ。」

未来は、ビツクリした。

未来（私のことが、わかった？

嘘でしょ！！だって元から、私はいなかったのに……わかるわけない……）」

ツナ「リボーン何言ってるんだよ！！未来ちゃんが、隠し事をするわけないだろ！！」

ツナは、必死になって、リボーンに話している。

獄寺「いや、10代目……リボンさんの言ってることは、正しいと思います。」

ツナ「獄寺君も、何言ってるんでよ!!」

ツナも、必死に声を上げてる。

リボン「ツナどうしていえる。愛原が、隠し事をしていない証拠は、あるのか？」

ツナ「ないけど……未来ちゃんないよね……隠し事なんて。」

ツナは、未来を見て言う。

未来「私は……」

またツナたちと会う!?(後書き)

次回未来の秘密ごとに、迫ってみます!!

ボンゴレとの関係！！（前書き）

長いです。

ボンゴレとの関係！！

未来「……………私は……………隠し事なんて……………」

未来は、その後は、黙ってしまった。

つまりそれは、隠し事があると、言っていることだ。

ツナ「嘘でしょ……………なんで隠し事なんて……………」

ツナは、動揺している。

未来「アツハハハハハハハ！！」

未来の高い声が、響く。

未来「バカじゃないの！！いつとくけど、私は、ボンゴレなんて大嫌いだ！！！！」

ボンゴレなんて……………ろくなやつがない。」

未来は、息切れしている。

皆は、いつでも戦闘できるように準備している。

未来は、自分がつけているネックレスを手に取り、握った。

未来「いいよ……………みんながその気なら、しょうがないね……………」

ボンゴレがどんなにおるか、教えてあげる……」

未来は、下を向いた。

未来「私は、母親がいたは、エメラルドじゃない本当の母親が、

母親は、もちろんマフィアだったは、

母は、任務中に、ボンゴレの人にあつたの。

この任務は、ボンゴレの壊滅だった、

母は、その人に一目惚れしたわ。

任務中しかし、相手は、敵のボンゴレ……恋をしてはいけない関係。

母は、この戦闘で、亡くなっていることにしたの……恋をした相手も、死んだことになって

いる。

二人は、結婚をし、私を産んだ。しかし、ここで歯車は、狂ったわ。

二人とも死んだことになっていたはずが、生きているってことが、分かってしまった。

ボンゴレのほうは、娘と奥さんを殺せ。

母のほうは、娘と夫を殺せ。

どっちも、ボスからの命令は、殺せと言う、命令。

どっちも、幸せを求めたから、神様からの、天罰だ、と思っ
ていた。

だが、父のほうは、自分が殺されると思い、母を殺した。

私がまだ、5歳の時だった。

父は、命令どおり私も、殺そうとした……

だが、私は、母が死んでいたのを見て、父が、裏切ったこと
に、気がついた。

私は、許せなかった。あんなに、幸せそうな、両親だったの
に、

父の裏切り、しかも命令したのは、ボンゴレのボス……

だから、私は、母を殺した、ボンゴレを許さない……」

未来は、今にも泣きそうだった。

未来「これで話すことはないわ……さようなら……ボンゴレ
の皆さん……」

沢田 綱吉……」

最後に言った、未来の言葉だけが、うれしそうに聞こえた。

ボンゴレとの関係！！（後書き）

未来の、過去言っちゃったよ。

なお、これは、過去の話です。

まだ、未来自身の、秘密があります。

喧嘩！！

未来は、ツナたちと別れて、10分経っていた。

未来は、自分の家に着いた。

未来「ただいま〜 ロックいるでしょ。」

未来は、今はとつてもだるかった。

ロック「おかえり、いるぜ。」

ロックは、堂々とソファに、座っていた。

未来「なあ〜に、やってるのかなあ〜?? ロック君は・・・」

未来は、最高の笑顔と、殺気をしながら、言った。

ロック「すいません。調子に乗っていました。いご注意します。」

未来も、謝っているロックの隣に、座った。

ロック「ちよつと・・・話があるんだが・・・」

未来「わかってるよ・・・そんなの、どうせさっきの話でしょ。」

ロック「ああ、そうだ。分かっていると思うが、お前は、元々いいレギュラーだ。」

なのに、なぜあの話をした!!」

未来は、初めて見たロックの表情だった。

ものすごい、無表情で、目からは、怒りの感情が、出ている。

未来「ごめ……ん……なぜか……あの時に……記憶が、
流れて……きて……」

未来は、泣いていた。

ロックの冷たい表情が、怖いのだ……いや、怖すぎる。

ロックは、なぜ未来が、泣いていたのか、すぐ分かった。

ロックは、無表情から、優しい表情になり、笑って

ロック「怖い思いさせてごめん。

でも、どういう事だ!?

記憶が流れてきた……」

ロックは、それを聞いて思い当たる節があった。

ロック（記憶が、流れてくるって、未来の思考に、誰かが、その記憶を流し込んだとしか、考えられない

でも、もし未来が、多重人格だったら、ありえる。

でも、それだったらすぐに、分かるはずだ。(

ロツクは、悩んでいた。

未来「ロツクそんなこと考えてたの……酷い！！ロツクのバカ

—————」

未来は、心が読めるので、ロツクが、考えていることは、分かった。

未来は、家を出て行った。

部屋に、残ったのは、静かになった部屋と、ロツクだけだった。

もう一人の自分!!

未来は、家を出てきた後、山に来ていた。

未来「ハアハア……ロックめ!!私、多重人格だ!!

……でも……そうかもしれない……」

未来は、思い当たる事が、ある。

特に、勝負してる時だ。

急に、楽しくなって、もっと殺したい、もっと血が見たい……
など、普段考えてないことが、やりたくなる。

まるで、違う自分が、それを求めているみたいで、怖くなる。

『……そうだ、最求めればいい』

未来「誰?もしかして……違う自分……」

『……さあ、もっと殺せ!!殺せばもっと楽になる』

未来「どういうこと!!何で殺さないといけないの!!」

『もともと、お前は、本当の自分に、きずいていない』

未来「意味わかんない!!」

未来は、倒れた。

未来「!?!」

未来（何これ……動けない……）

『……安心しろ、最後に、我が名は、ジョーカだ』

未来は、一瞬復讐者^{ロインディエ}が見えたようだった。

未来は、意識を失った。

あの人に！！

未来は、起きたら違う場所にいた。

その場所は、暗い部屋で、電気が、一列に並んでいた。

未来「ここどこ？とりあえず探してみるか・・・」

未来は、一列になっている光ってる道を、歩いた。

歩いていると、一つのドアがあった。

未来「ここでいいのかなあ・・・とりあえず行くか。」

未来は、ドアを開けた。

開けた先は、奥が真っ暗で、人の気配がした。

未来「誰か・・・いる・・・」

未来は、さらに奥に進み、確認しながら歩いた。

？「そんなに警戒しないでよ・・・未来。」

その声は、奥から聞こえた。

未来「出てきて・・・貴方は誰？」

未来は、一つ剣を、取り出した。

出てきたのは、男だった。

？「なあ・・・未来、俺のこと忘れたの？」

未来は、何のことだかわかんなかった。

未来「何言ってるの！！貴方は誰？」

ジョーカー「俺が、ジョーカーだよ。会いたかったよ、未来。」

未来は、ジョーカーの名を聞いたことがあった。

未来「貴方が、私に話しかけてきたのね。」

ジョーカー「ああ、そうだよ。」

酷いな未来・・・俺は、お前を忘れた事なんてないのになあ〜」

未来は、剣を構えた。

未来「私は、お前なんて知らない・・・」

未来は、ジョーカーの近くに行き、ジョーカーを斬った。

もうそこには、ジョーカーはいなかった。

ジョーカー「いきなり酷いよ・・・」

ジョーカーは、未来の後ろにいた。

未来は、ジョーカーから離れた。

今度は、ジョーカーから、未来近づいた。

ジョーカーは、目に見えない速さだった。

未来が、見た時は、もう目の前にいた。

あの人に！！（後書き）

いいところですが、次回です。

新たな名！！

未来「やばい……でも、これじゃよけれない……死ぬのか……」

目をつぶって、殺されるのを待った。

痛みは無く、目を開けた。

ジョーカーは、目の前にいた。

未来「私……死んでない……なんで!？」

ジョーカー「未来を殺すわけ無いよ。」

未来「がいないと困るの俺だし。」

ジョーカーは、笑っている。

未来もつられて、笑った。

未来「てかさあ……ここどこ?？」

「一番気になっていることを聞いた。」

ジョーカー「ここは、俺の幻想世界だ。」

未来「えーっど何で私は、ここにいるのかな?？」

ジョーカー「だって・・・未来は、俺で、俺は、未来だ。」

未来「言ってることが分からないんだけど・・・」

ジョーカー「つまり、俺は、もう一人のお前だ!!」

未来「!?!」

ビックリ過ぎて、声が出ない。

ジョーカー「俺は、戦いがメインだ。

未来が、戦ってる時は、俺の力を貸している。

逆に、戦いじゃない時は、未来だ。」

未来「えっ!!そうだったの!!」

(だから、戦いの時は、我を失うのか・・・なるほど!!)

ジョーカー「俺は、復讐者ヴァンデイチエの支配者だ。」

未来「えっ・・・支配者?嘘でしょ!!」

ジョーカー「いや、これが本当なんだよ!!だから、未来も、復讐者ヴァンデイチエの支配者

ってこと。」

未来「わ、私も!!嘘でしょ・・・」

ジョーカー「しょうがないよ……未来……ボンゴレに、憎んでるって話したでしょ……」

あれは、本当は、俺の記憶なんだ……」

未来が、話してる時、記憶が流れてきたのは、ジョーカーの記憶。

未来（ちよつと待てよ……ことは、私が、転生してきたこと、知ってるジャン！！）

ジョーカー「俺は、ずっと待ってたよ、未来のこと……」

これで、永遠に離れないね……

俺が、全部うまくやっておくから、今は、眠ってて。」

未来は、だんだん眠くなってきた。

未来（なにが……うまくいくの……ジョーカー）

未来は、意識を失った。

・ ジョーカー「大丈夫だよ……俺らで、ボンゴレをつぶそう……」

誰もいない……世界を作ろう……ルビー・ル
ミネ・未来、

いや、『シークレット・プリンセス
秘密の姫』」

ジョーカーは、未来に向かって笑っていた。

まるで、悪魔のような顔で……

仲直り！！

未来は、起きた時は、自分の部屋にいた。

未来「あれ？何で家にいるのかなあ〜？だって、さっきは、ジョーカーと会ってたし……」

ロック「未来起きたのか……」

ロックがいた。

心配そうな顔をしている。

未来は、気づいた。

未来（そういえば……まだロックと仲直りしてないんだ！！）

未来「ロック……この前はごめんなさい」

頭を下げて、謝った。

ロック「俺も悪かった……未来は、未来だもんな」

二人は、笑いあい、笑顔になった。

ロック「俺昨日は、心配したぜ。」

「だって、未来が帰ってきたら、お前すぐ自分の部屋行ったよな。」

未来（それって……ジョーカーが、私の体使ったってこと！！
！）

ジョーカー『そうだよ……未来の体使ったっていいじゃん。』

よくない……
未来

ロック「どうした、未来？」

未来「なんでもない」

未来は、立ち上がりで出かける準備をしている。

ロック「どっかいくのか？」

未来「うん！！いってきま〜す」

ロック「いってらっしやい」

仲直り!! (後書き)

ジョーカーの、説明書きますので・・・
お楽しみに
感想も待ってまゝです

六道 骸に会う！！

未来は、家を出て向かった先は、黒曜ランドだった。

黒曜ランドに着き、中に入る。

未来「誰かいる??出てきて〜」

犬「お前誰だぴょん!!」

未来「やっと出てきてくれた!!私は、愛原 未来。

骸に用があつて。」

犬「骸さんに?ついてくるぴょん」

着いたところは、部屋だった。

千種「・・・犬、その人誰・・・」

犬「骸さんに用が、あるみたいだぴょん。」

クローム「骸様に・・・?」

未来「そう・・・骸に用があつて・・・」

えっーと・・・貴方達は?」

犬「城島犬らっ」

千種「……めんどい……」

未来「なにそれ!!名前ぐらい言っつてよ……」

千種「…柿本千種……」

クローム「……クローム……髑髏……」

未来「私は、愛原 未来、よろしく!!」

クローム「……よろしく……未来……」

未来「よろしくね……クローム」

クロームは、恥ずかしいのか、下を向いてしまった。

未来「ねえ、クローム、骸に会えない?」

クローム「今、聞いてみる……」

クロームは、目をつぶった。

クローム「いって……」

クロームの周りに、霧が出てくる。

骸「クフフフ」

男の声でした。

骸「貴方ですか、私を呼んだのは」

未来「初めまして、私は、愛原 未来です。」

骸「私は、六道 骸です。」

未来「・・・私になんのようですか？」

未来「いや、用ってほどじゃないけど・・・」

骸「さあ、ツナの霧の守護者じゃん・・・」

会ってみたいなあ、と、思い来ただけ。」

骸「クフフフ、そうですか・・・。」

未来「これから、よろしくね!!」

骸「いいですよ、クロームを頼みました。」

そういつて、また霧が、出てきて、クロームが、倒れてきた。

未来「おっと、危ない。」

クローム「未来・・・話終わったんだ・・・」

未来「うん、じゃあね、クロームたち・・・」

未来は、クロームたちに、手を振って、行った。

ジョーカーの設定！！

名前 ジョーカー

身長 154cm

体重 50kg

髪型 ショートで、赤色

目の色 赤色

武器 未来と一緒

性格 めんどくさがり、人を信じない

好きなタイプ 誰にでも本性を出さない人、人を信じない人、世界を憎んでいる人

嫌いなタイプ 人を信じる人、優しくする人、何も考えてない人

説明 未来のもう一人の人格、未来だけを信じ、未来のためなら、なんでもする、

過去に暗い思いをしている。

未来を使って、何かをたくらんでいる。

未来の体を、自由に使えて、思考が、読める。

快感！！

未来は、黒曜ランドを去って、次に行った場所は、並盛山だった。

未来「ジョーカーここに何があるの？」

ジョーカー『待ってる……これから、楽しいショーが始まるから待ってて……』

ジョーカーの言ってることは、何か分からなかった。

聞いているだけで、寒気がした。

何を考えているか分からない……それに、ジョーカーは、いつも残酷なことで、楽しいことを

考えてる。

ジョーカー『そろそろ、始まるよ……』

未来「なにが……」

未来は、待ち構えていたが、何も起こらない。

ジョーカー『未来、隠れて……始まるよ……』

未来は、ジョーカーに言われたとおり、近くの林に、隠れた。

そこに、現れたのは、ツナたちだった。

ツナ「あれ？ここら辺で、気配感じたのになあ〜」

獄寺「そうなんですか・・・でも、誰もいませんよ。」

山本「ツナの勘違いだぜ!！」

ツナ「やっぱりそうなのかあ・・・」

未来は、ツナが言っていることは、自分のことだと分かった。

ジョーカー『未来、あいつらと戦わないの？』

せつかく、潰せるチャンスなのに・・・もったいな

い・・・『

未来（無理に決まってるでしょ!！）

ジョーカー『だったら、俺がやるよ・・・未来のために・・・』

未来ちよっと待っててね・・・『

未来「いつもジョーカーばかり・・・」

未来の、意識は飛んだ。

ツナは、奥から聞こえてくる音を見逃さなかった。

ツナ「誰か来る!！」

ツナたちは、戦える準備をした。

ツナ「出て来い・・・」

奥から出てきたのは、深くフードをかぶっていて、顔が見えなくて、全身黒の人だった。

フードから、少し赤い髪が、見えていた。

ツナたちは、誰かわかんなかった。

あとで、後悔をするとは、知らず・・・

未来だと・・・分からないまま・・・

正体！！

ツナ「お前は、誰だ！！」

未来「お前達には、教えない・・・ただ、私は、お前達を殺すだけだ・・・」

獄寺「10代目下がっててください！！」

山本「ツナ、下がってる！！」

二人は、ツナの前に出て、構えている。

未来「すぐに楽にしてやる・・・」

未来は、獄寺と山本に、近づいた。

二人とも、反撃してくるが、すべてをかわしている。

未来「甘いぞ！！死ね！！」

未来は、山本に、向かって剣を振った。

未来の前に、山本は、いなかった。

未来「なんだと・・・」

山本「攻式、五の型 五月雨」

未来「っ！！」

未来は、寸前でよけた。

未来「危なかった・・・」

獄寺「フレイムアロー赤炎の矢」

未来は、よけれなかった。

未来「いった〜」

ツナ「未来！？」

ツナが、姿とは、フードが外れていて、ストレートで、赤髪だった。

ツナ「どうということだ！！ホントに、未来なのか？」

未来「ばれちゃったかあ〜・・・改めて、

愛原 未来、またの名は、シークレット・プリンセス『秘密の姫』だ！！」

リボーン「シークレット・プリンセス『秘密の姫』だと！！」

目的！！

ツナ「リボーン知ってるのかよ！！」

リボーン「有名だぞ……『シークレット・プリンセス秘密の姫』は、

何も言わず、人をどんどん殺していくんだ……

まさか、それが、愛原だったとは……」

未来「そうだよね！！身近に、殺し屋が、いるんだよ……

それにね、ボンゴレのボスは、友達って思っているみたいだしね……」

ツナ「何の目的で、殺すんだ！！答える！！」

未来「目的ねえ……そんなのあるわけねえよ……

まあ、一つは、ボンゴレを、壊滅することだ」

獄寺「お前は、自分がやっている事分かってるのかよ！！」

未来「そんなの知らないね……ただ、俺は、マスターの為に、殺してるんだ。」

山本「マスター？」

未来「これ以上話すと、マスターに怒られるから……

俺は、未来でもあり、ジョーカーでもある……

じゃあな……ボンゴレ……」

未来は、闇の中に消えていった。

ツナ「ジョーカーって誰だろう……」

リボン「ジョーカーの意味は、

『最後の切り札』どついつことだ……」

後悔！！

未来は、起きた時は、家にいた。

未来「ジョーカーめ！！ゆるさねえ！！

ジョーカー出て来い！！」

ジョーカー『俺と話したいなら、寝ろ』

未来「わかったよ・・・」

未来は、ベットへ行き、3秒で寝た。

未来は、ジョーカーの幻想世界に、着いた。

未来「おい、ジョーカー出て来いよ！！」

ジョーカー「さつきから、うるせえなあ！！聞こえてるつつつの」

ジョーカーは、ソファに座っている。

未来「だって、ジョーカーが、私のことはなしたじゃん！！

何で言ったの！！」

ジョーカー「しょうがないだろ！！ばれちまったのは、仕方ない。」

未来「どうしよう・・・明日学校なのに・・・ツナたちと、喋れ

ない。」

ジョーカー「だったら、ボンゴレに、告白すればいいじゃないか。」

未来「こ、告白／＼／＼／＼／＼／」

一気に、顔が真っ赤になった。

ジョーカー「そっちの告白じゃない……」

敵って言えばいいじゃん。」

未来「敵って……明らかに、だめじゃん。」

ジョーカー「未来……じゃあ、このまま、ボンゴレを消そう……」

未来「えっ……なに言ってるの!!!やだ!!!」

私は、やっぱり……ツナたちを、裏切れない……やっぱり、仲直りする。」

ジョーカー「いいよ……未来が、その気なら……俺は……」

未来を、殺す!!」

未来「!!!!」

ジョーカー「じゃあな、未来。」

未来は、何も言えず、そのまま、ジョーカーに殺されてしまった。

ジョーカー「未来が、悪いんだよ……」

俺を、忘れたから……

忘れるほうが悪いんだよ……」

ジョーカーは、何も言わない未来に向かって、言った。

ジョーカーは、未来を抱え、ソファに寝かせた。

未来の顔は、笑っているまま、泣いていた。

死んだはずなのに・・・

死ぬなよ!! b y ロック (前書き)

更新遅れてすみません!!

死ぬなよ！！byロック

ロックは、さっきの光景を、見ていた。

ロック「おい、未来！！目を覚ませよ！！」

お前が、死ぬわけないだろ・・・」

ロックは、目をつぶっている未来に、呼びかけた。

だが、目を覚まさないままだった。

・
ロック「未来・・・お前には、聞こえないかもしれないけど・・・

今まで悪かった。

未来の家にあるケーキ食べたのは、俺だ・・・あと、勝手に物を隠したのは俺だ！！

あと、いろいろあるけどごめん・・・

目覚ましてくれよ！！何でもするから！！！！」「えっ！！ほんと！！何でもするの！！！！！！」

えっ・・・未来」

ロックが、見たものは・・・めっちゃ元気な未来だった。

未来「わーい、やったね！！なんでもしてくれるなんてラッキー」

ロック「えっ……なんで……死んだはずなのに……」

一気に、顔が真っ青になった。

未来「死ぬわけ無いよ。だって、普通もう一人の自分を殺さないでしょ。」

てか、ジョーカーは、私の為に、働いてくれるんだから。」

ものすごい笑顔、言ってくる未来。

それを、真っ青な顔で見るロック。

二人は、正反対に顔だった。

未来「よし……ここを、探検するか。」

ロック「えっ！！！」

未来「早く行くよ！！ロック。」

二人は、探検に行った。

その先には、未来の過去が！！

探検！！

未来とロツクは、奥に進んでいると、

廊下には、いろんな紙が、貼ってあった。

ロツク「なんだこの紙？」

未来「知らないよ……」

紙には、いろんな事が、書いてあった

ロツク「なにになに……」

中学生高跳びで、全国大会行き！！　すごいなあ」

貼ってある紙は、他にもあった。

『全国大会行き、感謝状もらう』などあった。

共通点は、全て同じ人だった。

名前は、『愛原 未来』だった。

ロツクは、名前を見て、驚いた。

ロツク「なんで……未来の事はっかなんだ？」

未来「っ！！」

未来は、目を疑った。

紙は、全部元の世界の物だった。

未来が、全部取った物が、載っていた。

ロック「お前凄いな!!」

未来は、紙の近くに行って破いた。

未来「こんな物意味無いよ」

未来は、その場を後にした。

探検！！（後書き）

未来は、凄いですね！！

こんな人居たらびっくりしますよね。

何個も、賞状貰うとか。、いいなあ

番外編 元の世界の生活！！（前書き）

未来が、死ぬ前の話です。

番外編 元の世界の生活！！

まだ、REBORN！のせかいに行く前のお話。
愛原^{あいはら} 未来^{みらい}中学2年生。

数々の賞などとしてきた人。

頭脳も学年で一位。

すべてが、完璧だった。

未来は、陸上部のキャプテン。

誰からにも信頼されていた。

部活が終わりかえろうとすると、いつもの人が居た。

未来の親友だった。

いつも親友は、部活が終わるまで待ってくれる。

親友「今日も早かったね！！なんでそんなに早く走れるのかあ」

未来「知らないよそんなの」

親友「未来のイジワル！！ホントは、知ってるくせに」

未来は、いつもの会話も、楽しかった。

一番大切だった、友達だったから。

当然親友が、本屋の目の前で止まった。

親友「未来！！今日は、REBORN！の新刊の発売日だよ！！」

未来「あつ、忘れてた！！早く買いに行こ！！」

二人ともREBORN！が、大好きのため、急いで本屋の中に入っていた。

二人は、本を買って出てきた。

親友「やった！早く家に帰って読みたい！！」

未来「そうだね！！」

二人は、走った。

走っていたら、二つの分かれ道があった。

親友「ここでお別れだね！！バイバイ未来、また明日！！」

未来「また明日ね！！」

二人は、それぞれ違う道を行った。

未来は、明日は、無いのに・・・

未来「っ！！」

未来は、ベットから起きた。

未来「あれは・・・夢だったのかあ・・・親友の名前ってなんだったけ？」

未来は、大切だった友達の名前を、忘れていた。

大切だった・・・友の名を・・・

ドアの先は！！

未来と、ロックは、無言のまま歩いていた。

ロック（何でこんなに、未来怒ってるのかなあ〜？？

俺なんかした・・・さっきの事しかないか・・・）

ため息をついた。

急に、未来がこっちを向いた。

ロック（やばっ！！気づかれた・・・）

未来「ロック・・・道が、勝手に案内されるみたい。」

未来が、言ったとたん、壁が動いた。

ロック「何だこれは・・・」

未来「ついた・・・」

前を見てみると、大きなドアがあった。

未来は、ドアを開け、中に入った。

中は、写真がいっぱい貼ってあった。

俺は、未来を見た。

未来は、目を大きく開けた。

写真を見てみると、未来と、女の子の二人っきりの、写真が貼ってあった。

周りを見ても、違う写真だが、未来と誰かが、写っている写真が、いっぱいあった。

未来「なんで……こんな……しゃ……しんが……」

俺を見ると、未来が、泣いていた。

ロック「おい、大丈夫かよ……」

呼びかけても反応が、無い。

ロック「なんだよ……この部屋は……未来との写真が、いっぱいある。」

未来「なんで……なんでよ!!!なんで、元の世界の写真があるの!!!」

未来は、声を張り上げていった。

ロック「元の世界の……」

?「ああ、見ちゃったんだ……」

後ろから、男の声が聞こえた。

後ろを向くと、ジョーカーだった。

俺は、ジョーカーから、未来に視線を移した。

未来は、ずっと写真を、見ている。

ジョーカー「君は、ロックって言うんだよね……」

「この部屋は、『未来の記憶部屋』だよ。

元の世界の記憶……」

ジョーカーは、笑いながら言った。

ドアの先は！！（後書き）

今回は、ロック目線です。

感想お願いします。

契約！！

『未来の記憶部屋』だと……

ジョーカー「あらあら、未来大丈夫か？

そんな親友のこと忘れちゃっても良かったのに……

だから、俺の世界に、記憶入れたのになあ……」

未来は、話を聞いているわかんない。

ずっと写真に向かって泣いている。

ジョーカー「未来……契約をしよう。

契約してくれば、未来の体を、自由にしてやる。

元の世界の記憶も、忘れさせてあげる……

未来が、危ない時は、助けるし、体を貸してくれば、

敵も倒す。

「どうだ？」

俺は、未来を見た。

未来は、泣きやんでいて、ジョーカーを見ていた。

未来「・・・ほん・・・と・・・?」

ジョーカー「ホントだよ。」

未来「いい・・・よ・・・契約・・・する・・・」

ジョーカーが、笑った。

ジョーカーは、未来のそばに行き、足を床に付いた。

ジョーカー「我がマスター、契約をするため、おしゃぶりを出して
ください。」

未来は、おしゃぶりを出した。

おしゃぶりがひかり、虹色から、黒になった。

未来「!?!」

ジョーカー「大丈夫、俺の時は、おしゃぶりが黒になる。

普段は、虹色だから安心だよ。

これで、契約完了・・・」

ジョーカーは、指を鳴らした。

鳴らした瞬間、周りが歪んだ。

ジョーカー「もう・・・目覚める時だ・・・」

俺達は、ここを去った。

何をする！！

目覚めたら、自分のベッドで、寝ていた。

未来「もう……朝かあ……」

未来は、朝の用意をした。

今の時刻は、7：40分

いい時間だ。

未来「行つてきまゝす」

家を出て行った。

歩いてると時、考えてた。

未来（ツナたちと、会つての気まずいなあ……）

考えてると、もう学校の前。

正門に、入ろうとすると

雲雀「ちよつと待ちなよ」

未来「えっ……」

後ろを向いたら、雲雀がいた。

未来「な、何のようですか？」

雲雀「咬み殺す」

未来（なんかいきなりトンファー出してん〜）

雲雀は、トンファーを振ってくる。

未来「えっ！！私、なんかした〜」

雲雀「うるさい、早く咬み殺されなよ」

未来は、もうダッシュで逃げる。

学校の中で、鬼ごっこをしている。

未来「追いかけてくんなあ〜！！」

もう、体力が限界だ。

キンコーンカーンコーン

未来「えっ??？」

雲雀「遅刻だね」

今、この人何言った？

『遅刻』……

未来「お前のせいだろ!!」

未来は、2 - A組に行った。

みんなが見てくる。

先生「愛原―遅刻だぞ」

未来「なんか文句あるのかよ!!」

未来（あつやば……）

心の本音が出た）

先生「いや……ありません。」

早く席につ、着いてください。」

みんなからの視線が、痛いよ〜

自分の席に座った。

未来「綱吉君、おはよ〜」

ツナ「えっ……おはよ……」

気まずいので、あえてツナじゃなくて、綱吉君に……

授業が始まった。

全部分かるので、つまらない……

なにしよう……

とりあえず、疲れたので、寝る。

ツナ「やつ……えっ!!……そんな……」

ツナの声がする。

何言ってるんだろう……

未来は、起きた。

隣には、獄寺、山本、ツナ、リボンがいる。

みんなは、固まってる。

急に、目が覚めたから？

窓に目をやると、夕方。

未来（あっ……どんだけ寝てたの！！）

リボン「おい、愛原。

お前、ツナたちを殺すか？」

未来「えっ……なんで??」

ツナ「えっ……だって……並盛山で会った時……」

未来「ああ!!その時か!!」

別に、どうだってよくない？

私は、その時によるから」

獄寺「おい、愛原!!」

俺らが、言ってるのは!!

俺らと、戦うのか!!

未来「だから・・・その時の気分で、決まる。」

山本「じゃあ、俺らと、戦う時があれば、戦わない時もあるって事か？」

未来「そうだよ・・・もう!!」

話しまだまだあるよね!!

ツナ「う、うん・・・」

未来「ついてきて!!」

リボン「どこにだ？」

未来「私の家!!ここで、話すの嫌だから!!」

皆「」「えっ・・・」「」

未来は、さっさと行ってしまった。

何をする！！（後書き）

ダラダラです。

すいません・・・

未来の家！！

未来は、さっさと歩いている。

ツナ「み、未来ちゃん？」

未来「なに、綱吉君？」

ツナ「俺のことツナでいいから・・・」

未来「・・・」

ツナ（えっ！！無視）

獄寺「おい、10代目が、話しかけていらっしやるのに、無視するな！！！」

未来「・・・」

獄寺「おい！！聞いてんのかあ！！！」

山本「落ち着けて。」

獄寺「野球バカは、黙ってる！！！」

ツナ「はあ・・・」

未来は、止まった。

未来「ここよ・・・」

みんな「「「えっ・・・すご!!」「」」

ツナたちの前には、お城みたいな家があった。

未来「早く入って」

中に入ると、すごい豪華だった。

ツナ「い、家の人は・・・？」

未来「いないに決まってるじゃん」

ツナ「ごめん・・・」

未来は、奥に進んだ。

一つの部屋に着いた。

未来「ここが、私の部屋だから、中でくつろいでて・・・」

ツナたちは、中に、入った。

山本「ここもすげ〜な」

ツナ「ほ、ほんとだね」

獄寺「10で代目のお部屋には、かなわないですよ・・・」

ツナ「未来ちゃんは？」

未来「着替えてくるの」

未来は、出て行った。

ジョーカー「おい、未来・・・何であいつらを、家に連れてきたんだ？」

未来（学校で、話すと周りに聞こえるから）

ジョーカー「へえ、めずらしいな・・・」

未来は、着替えて部屋に戻ってきた。

未来「待たせてすみません・・・」

ツナたちは、部屋を見ていた。

ツナ「ごめん！！勝手に見ちゃって！！」

ツナたちが、見ていた部屋は、隣の部屋だった。

くつついているから、隣に簡単にいける。

未来「別に、大丈夫です・・・」

リボン「お前みたいなのが、隣の部屋に、写真部屋に、するなんてな・・・」

未来「悪かったね……」

ツナ「未来ちゃんそれ、部屋着？」

未来「違う……ただの服……」

未来の服装は、白のワンピースに、黒い上着を着ていて、ヒールを履いている。

ツナ「へえ〜そうなんだ……」

未来「話って？」

リボーン「『シークレット・プリンセス秘密の姫』の事だ」

未来の家!! (後書き)

皆さん、あけましておめでとございませー!!
今年も、よろしく願ひします!!

番外編 初詣!!!

未来は、着物を着ていた。

未来「うん……これでいいかな？」

ロック「なかなか、似合ってるぞ!!」

どっか行くのか？」

未来「ツナたちに誘われて、初詣に行つて来る!!」

ロック「めでたいね」

未来「行ってきます!!」

ロック「いつてら」

未来は、並盛神社に向かった。

もうツナたちが、待っていた。

未来「遅れてごめん」

ツナ「大丈夫だよ!!」

獄寺「10代目を、待たせるなんて……」

未来「だから、ごめんって謝ってるでしょ!!」

リボーン「早く行くぞ」

もうけっこう人が、並んでいた。

ツナたちと、はぐれそうになる。

ツナ「未来ちゃん大丈夫？」

未来「なんとかね・・・」

未来は、大型の男の人にぶつかってしまった。

未来「いたっ!!」

男「なんかぶつかったか？まっいつか・・・」

ツナ「みらいちゃんだいじょ・・・えっ・・・!!?」

そこには、髪の毛がお団子から、ストレートになっていた。

未来「うん・・・大丈夫・・・えっ、ツナ何？」

ツナ（メツチャ可愛い!!ストレート見たこと無かった・・・）

周りの男達は、未来を見ている。

リボーン「早く行くぞ!!」

ツナ「ぶっ!!」

リボーンが、ツナを蹴った。

この後、みんなで、初詣を、ちゃんと終わらせた。

ツナ（今日は、楽しかったなあ〜・・・また、来年も行きたいな
！！）

未来（はあ〜・・・今日は、大変だった・・・）

困惑!! (前書き)

お気に入り増えました!!

ありがとうございます

これからも、頑張りますので、応援お願いします!!

今回は、ツナ目線です。

困惑!!

リボーンが、言った瞬間、未来ちゃんの顔が、暗くなった。

未来「…………なぜ…………」

リボーン「お前のことだからだ…………」

ツナ「リボーン急に、そんなこと聞くなよ!!」

未来「ツナは、知りたくないの？」

ツナ「っ!!」

確かに、俺は、知りたい。

なぜ未来ちゃんが、殺しをやっているか…………

俺達を、憎んでいるって、ホント？

未来ちゃんを、俺は、知りたいよ…………でも、未来ちゃんは、
教えてくれない…………

なんで、どうしてだよ!!

未来「シークレット・プリンセス秘密の姫って、どう思う？」

私って知ってるけどさあ…………はっきりに言っただけっ?」

ツナ「何でいきなりそんなことを……………」

未来「言葉の通りだよ」

みんなは、黙っている。

当たり前だよ……………こんな質問……………

山本「俺は、さあ……………」

シークレット・プリンセス
『秘密の姫』って事知らなかった……………

でも、愛原って聞いた時は、ビックリしたぜ？

愛原の家族のことを、聞いた時も、そんなことってあるのかよ、って思った。

でも、愛原は、愛原だ。

俺は、お前のこと友達だっと思ってるぜ!..!」

ツナ「山本」

獄寺「野球バカ」

山本は、すごい……………

それに、比べて俺は……………

獄寺「俺は、はっきり言っぜ……………」

俺は、シークレット・プリンセス『秘密の姫』のことは、知ってた。

裏社会では、有名な殺し屋だ。

その正体が、お前だって知った時、むかついた。

もともと俺は、お前のことが、嫌いだった。

10代目に、なれなれしかった。

愛原は、今でも、嫌いだ!!」

ツナ「獄寺君」

獄寺君もすごいなあ〜……

二人とも、やっぱり未来ちゃんのことを、心配している。

俺も、ちゃんと言わないと!!

未来「ツナは？」

ツナ「俺は……」

シークレット・プリンセス『秘密の姫』は、山本と同じで、知らなかった。

でも、未来ちゃんって聞いた時は、嘘だろって思った。

未来ちゃんが、殺し屋だって思ったら怖かった……

その後も、驚くことばかりで……

でも、俺は、本当に未来ちゃんは、俺達のことを、憎んでない
と思った。

未来ちゃんは、いつも本心を見せてくれない。

俺は、たとえ未来ちゃんが、俺らのことを憎んでも、俺は、
未来ちゃんを信じたい！！

いつだって、未来ちゃんは、俺らのことを、心配してくれて
るって思ってる……

今度は、未来ちゃんの気持ちか、知りたいんだ！！」

俺は、未来ちゃんを見た。

下を向いてて、表情が見えない。

未来「……ありがとう」

その言葉に、驚いた。

未来「今度は、私が答えるばんだね……」

その言葉に、息を呑む。

困惑！！（後書き）

感想待ってます。

本当の気持ち！！（前書き）

未来目線です。

本当の気持ち！！

私は、みんなの気持ちは、うれしかった。

私は、ボンゴレを憎んでるって言ったのに、みんなは、簡単に、裏切ってくれない・・・

あんなに、酷いことを言ったのに・・・

みんなの気持ちを、知ったから、答えないと・・・

未来「私は、ツナたちを、憎んでない・・・

憎む必要が無い・・・

『シークレット・プリンセス』
『秘密の姫』に、なったのは・・・

あることが、絡んでるの・・・

私のファミリーの、約束があつて・・・

その関係で、殺しをやっている・・・

秘密の姫ってさあ・・・

何も情報が、ない、あとは、何も言わないで殺しちゃうから・・・
秘密の姫って言われた。

私こそ、ボンゴレ10代目ファミリーに、酷いことについて

「ごめんなさい……」

また、友達になつてくれる？」

これが、私の本心……

今回だけだからね……出すのは……

ツナ「もちろんだよ!!これからもよろしくね未来ちゃん!!」

山本「よろしくな!!」

獄寺「10代目が言うんでしたら……」

未来「ありがとう!!よろしく!!」

?「ほらね……未来。」

私以外で、本心出せるじゃん!!

幸せでね!!」

どっかから、懐かしい声が聞こえた。

たぶん、あの人の声だ……

これからちゃんと……

向き合わないと……親友から、友達から、ファミリーから、母
親から、ボンゴレから……

これから、頑張らないと!!

本当の気持ち！！（後書き）

なんか、最終回になったWWW
これで、終わりじゃないですよ！！
新章に、入ります！！

呼び出し!!

あれから、一週間・・・みんなとは、仲良くやってる。

友達もいっぱいできた。

京子と花・・・違う学校だけど、ハルも!!

絶好調だね!!

でも、今は・・・

未来「やめてください!!」

今こうして叫んでるわけは、後ろの人のせい。後ろの人とは、雲雀
恭弥だ。

雲雀「咬み殺す」

訳が分からず、鬼ごっこ。

走っている時、電話が鳴った。すばやく取って、電話に出る。

未来「はい!!」

セディ『ルビー様、セディです。』

未来「何の用!!」

雲雀「ワオ、電話が出来る余裕があるんだね」

この人怖いよ……

雲雀の攻撃を、避けながらしている。

セディ『急な話ですけど……うちに戻って来てください。』

エメラルド様が、話があるそうです』

未来「えっ……」

電話が、切れた。

帰って来い……？ なんだと！！

走るのをとめて、後ろを向いた。

雲雀「??」

未来「ごめん、雲雀！！」

用ができたみたい！！」

とっさに逃げた。

向かった先は、2-A組だ。

未来「ツナ！！」

ツナは、びっくりしてこっちを向いた。

ツナ「未来ちゃん何？」

未来「私今から、イタリア行ってくる！！」

ツナ「えっ！！」

お話！？（前書き）

これから書き方が、変わります。
セリフの前に、名前があるのですが、これからは、ありません。

お話!?

「えっ!?!」

クラスに響いた。あまりの驚きに。

「ツナうつさい!?!」

「ごめん、未来ちゃん・・・あまりにも、急な話だったから。」

「てか、なんで急に、イタリアに行くんだ?」

山本が、未来に聞く。

「えーーーーー」

理由なんて、別によくな・・・

「まあ、ともかく今から行かないといけないから、行って来るね」

「ちょっと待ってよ」未来ちゃん

未来は、手を振った。

「さあ、今から空港行くか!?!」

空港に向かった。

いつかい空港に行く前に、家によってから空港に行った。

空港には、うるさい執事君がいる。

空港のロビーに、セディがいた。

こっちに気づいたのか、こっちによってくる。

「未来様、遅いですよ!!」

まあ、飛行機は、私達専用の飛行機ですので、いいですもの、普通でしたら、駄目ですからね。」

いきなり説教が、始まった。

「わかったから、早く行こう。」

「こちらです。」

なんかいきなり、分からない場所に、行った。

「JJJJJJJJ?」

「ここは、偉い人しか入れない場所です。」

まあ、裏口ですよ。」

偉い人しか入れない……私達すごいね!!

こんなところに、入れるなんて!!

「着きました。足元に注意してください。」

未来たちは、専用飛行機に乗った。

「すごい!!」

「早く座ってください。」

セディに、言われた通り座った。

こっからが、長いのだ……

「ねえ、話って何?」

「私もよく知りませんが、多分……ルビー様の今後の話ですよ。」

そっか、二人つきりの時は、未来だったけ?

忘れてた……

「えっ、つまり私が、ボスになるかってこと?」

セディは、頷いた。

「はあくボスね〜・・・私は、元々なる気だったから、いいかあ・・・」

未来は、これ以上セディが、何も言わないので、眠ってしまった。

お話！？（後書き）

どうでしたか？

感想お待ちします。

ボスになりました！！by未来

「ふあゝもう着いたの？」

「はい、もうつきました」

飛行機から出ると、イタリアだった。

車に乗って目的地へ行く。

そういえば、ボスの仕事って何やるんだろ？

殺し？書類仕事？かな？？

殺しは、まあ・・・ジョーカーの役目だし・・・てことは、書類とかめんどー！！

いろいろ考えてると、アジトに着いた。

セディについていると、エメラルドの部屋に着いた。

「すみません、エメラルド様。ルビー様を、お連れしました。」

セディは、ドアを開け、私だけ、中に入った。

「お久しぶりね。ルビーー！！」

「お久しぶりです。お母様。」

エメラルドは、未来を抱きしめた。

本当の娘じゃないのよね・・・

「早速だけど、ボスになりたい？」

「もちろんです。私は、ボスになる決心は、ついています!!」

「わかった。じゃあ、セディ。」

後のことは、頼んだわよ。」

そついつて、エメラルドは、出て行った。

「未来様。」

「お仕事を紹介します。」

「仕事は、

書類仕事。殺し。殺しの計画及び指令などだった。

「わかんないことが、ありましたら、言ってください。」

こうして、私は、ボスになった。

初仕事！！

私は、ある仕事で、出かけている。

その場所は、敵のアジトだ。

そもそも、私がでなくてよくね？だって、ボスなんだから、部下にやっというてもらえばいいじゃん！！

この隣にいる、執事ことセディのせいで！！

なにが『これは、未来様がやらないといけない仕事です』だって！！

まあ・・・早く終わらせるか・・・

「ジョーカー」

小声で名前を呼んだ。

『わかった。』

私の姿は、黒髪から赤髪になり、お団子からストレートになった。

黒い服なので、黒いフードをかぶり、『シークレット・プリンセス秘密の姫』になった。

「いきましよう。未来様。」

俺達は、中に入った。

雑魚どもが、いっぱいいた。

そいつらは、執事の野郎に任せた。

俺の目当ては、ボスだけだ。

ボスの部屋らしきところに着いた。

ドアを蹴りあげ、中に入る。

「っ！！」

相手は、かなり驚いてる。

「『シークレット・プリンセス秘密の姫』！！」

俺は、一つ剣を取り出した。

まずは、右肩を貫いた。

「うわああああ！！」

血が周りに飛び散った。

その叫び声を、聞きながら、銃をだし、左足を撃った。

「わああああ！！や・・・やめてくれ！！！」

「何でやめる必要が、あるんだよ。こんなに楽しいのになあ〜」

笑った。フードの下からでも、相手からは、口だけ見えるので、相
手は、青ざめている。

「もっと拷問しないとね」

その後は、アジトからは、笑う女の声と、叫ぶ男の声がやまなかつ
た。

会いに行く!!

仕事が終わった後、私は、ある所に向かっていた。

そこは、ヴァリアーのところだ。

みんなとは、あのパーティ以来だ。

みんなに言わないこともあるし、みんなの顔が見たくて来た。

ヴァリアーのアジトに着いた。

普通に入るのは面白くないし……よし、蹴りあげよう!!

バン!!

ドアが、粉々になった。

「侵入者だ!! 捕まえる!!」

あれ?もしかして……侵入者扱い?

これ面白い展開じゃん

とっさに、シークレット・プリンセス「秘密の姫になった。

「見けたぞ!! な、なに!?」シークレット・プリンセス「秘密の姫だと!!」

俺は、走って幹部達が、いる場所に向かった。

「ちっ、未来の野郎！！面白がって俺を呼ぶなんて！！」

俺は、会議室について。ドアを蹴り開けた。

ヴァリアーのやつらは、こっちを向いた。

「うゝおゝおい！！お前が、侵入者か！！」

「もちろんその通り。『シークレット・プリンセス秘密の姫だ！！』」

「なに！？」

俺は、こいつらを挑発した。

「お前らを殺しに来た」

XANXUSが、睨んでる。

「おもしれえ」

笑った。

「ボ、ボス。俺がやります！！」

「ムツツリは、黙ってる！！」

「ムツ、ムツツリ！！」

何こいつらで、仲間割れしてるんだよ！！

早く俺と、殺れよ。

『ちよっとまってよ!! ジョーカー……なんで戦うの!!!』

未来は、黙ってる!!

『っ!?! わ、わかつたわよ!!!』

「さあ、早く来いよ!!!」

ヴァリアー vs ジョーカーの戦いが始まった。

なぜ？

ジョーカーは、まず剣を銃に変えた。

狙うのはもちろんXANXUSだ。

俺は、ボスを殺すしか考えてない。

他のやつなんてどうだっていい。

バァン！！

まっすぐXANXUSに向かっていく。

「カスが！！」

見事に避けられた。

「うっおっおい！！よそ見るな！！」

間一髪避けた。

「あぶねえだろ・・・」

ベルがナイフを投げってくる。

「さすがに、7対1は、やばいだろ・・・」

避けきれぬが、ベルのワイヤーが、いろんな所にある。

どうする俺？

このままだと、正体がばれる。

「うう、おい！おい！さっさと死ぬ！！」

後ろを取られてしまった。

このままだと……本当に死ぬ。

悪い未来……アレを使うぜ！！

俺は、闇のおしゃぶりについている鎖をはずした。

おしゃぶりの力!!

鎖を外した瞬間ジョーカーから、殺気が溢れた。

XANXUS以外全員が青ざめている。

「ししっ、まじかよ」

「ムッ、すごいね」

同じ呪アルコバレーノわれた赤ん坊でも、驚くほどだった。

(ムッ、こいつは、なんでおしゃぶりを持つてるんだ?)

持っているのは、未来ぐらいだけど・・・ムッ、そうか!!)

「スクアアロそいつは、未来だ!!」

「なに!!」

「ああ〜やっぱりここでも、気づかれるんだあ〜」

つまんないの・・・マーマンそこは、普通無視してよ〜」

フードを外し、赤髪で、笑顔の未来がいた。

「うゝおゝおい!!どづいつことだあ!!」

相変わらずづるさいなあ〜

「いや、ドアを開けたら侵入者扱いされたから、このまま行ったらどうなるのかなあ」と、思って、

来たら殺される勢いだったから、勝負したんだけど」

「おかしいだろおお!!」

「で、どうする？」

「このまま殺る？」

挑発した言い方で言った。

「おもしれえ、そこまで言っただったらやってみる」

「えっ、いいのボス!!」

やった〜 それだったら、いっぱい殺れるジャン!!」

「しっつ、本当に殺んのかよ……」

みんな引いてるよ……当たり前だけど……

確か……この力出すのは、初めてだよね。

どんな力があるんだろ？

楽しみ

戦いじゃないの？by未来

「じゃ、行くよー!」

プルルルル・・・プルル・・・

「えっ!!--ごめん!!--」

戦おうとした瞬間、電話がかかってきた。

「はい!!--」

『セディです。』

「何のよう?」

『何のよう!!--?はあ・・・まったく困ります。』

今どこですか!!--!!--』

何でこんなに怒ってるんだろ?

私なんかしたかなあ・・・いや、してない!!--

「えっ」と、ヴァリアーのアジト

『ヴァリアーのところですか!!--?ふざけないでください!!--

こっちは、仕事が溜まっています・・・未来様がないと進ま

ないんです!!」

「うっお、おい!!早くしろお!!」

わあ、完璧に皆怒ってるよ!!」

これも全部……誰のせいだ？ お前のせいだろ!!by作者

「ちょっと待っててセディ。」

未来は、前を向いた。

「えつくと、これから仕事なんで……帰ります」

「しししっ、勝負どうするんだよ。」

「また、今度」

「お前仕事って何だあ!!」

相変わらずスクアア口は、黙ってほしい……

「えっ、知らなかったの？」

私は、ボスになったんだよ!!」

「ムッ、初めて聞いたね」

「だって、お母さんが、ボスの座降りちゃったから、私の代になったの!!」

言ったとたん、周りが沈黙になった。

何か悪いこと言ったかなあゝ・・・？

「えゝ・・・みんな、なんで黙ってるのかなあゝ？」

質問しても沈黙・・・

何この場・・・みんな沈黙ジャン。

後ろを向きドアを開いた。

「えゝゝゝまた来ます！！」

未来は、その場から逃げていった。

改めて電話を出した。

「ごめん！！話し終わった。」

『長いですよ・・・』

「すみません・・・仕事って？」

『また、裏切ったファミリイがいます。』

「またね・・・はあゝいい加減にしてほしい」

私達のルール！！

未来は、一つのファミリーの所にいた。

中に入っても人の気配が無い。

何でこんなに人の気配が無いんだ？セディによると、まだ人がいるって言ってたけど・・・

しばらく家の中を探していた。

歩いていると、一つの部屋に着いた。

中からは、人の声がする。

未来は、ドアをけり開けた。

「わあ、な、なんだ!？」

「皆さんこんにちは ルール違反を殺しに来ました!!！」

「なんだと!!うつ、この人は、ルビー・ルミネ・・・なんだここに・・・い、いるんだ」

「だからルール破ったから」

未来は、満面の笑顔で言ってるにもかかわらず、相手は、脅えてる。

「ル、ルールってなんだ？破った覚えないぞ!!！」

「あれ？忘れちゃった？？じゃあ、遊びながら教えてあげる」

片一方の剣を出した。

まず、部下一人。

どンドン人が集まった来る。

未来の周りには、300人ほどの人がいる。

「こ、こいつを殺せ！！」

ボスらしいひとから、命令が出た。

雑魚共が、攻撃してくる。

避けては、殺していく。

「ルールの説明しないとね！！」

しゃべりながら話す。

「ルールは、同盟する時書いたよね。

1、どんなに大変な時も助けに来る

2、自分のファミリー及び知っているファミリーの情報は、すべて私達、ルミネファミリーに教える

3、裏切つてはいけない

4、裏切った場合『ルール違反』として、罰を与える

以上この4つのルールを守ること……

貴方達は、そのルールを破った、だから、ボスの私が、殺しに来たの」

話し終わった時には、部下一人も残っていなかった。

「わ、悪かった……許してくれ!!!お願いだ。」

「へえ〜そんなに謝るなら最初から、ルール守ろっね」

未来は、もう片一方の剣を出した。

「罰ゲーム……だよ」

「うわっあああああー……」

その家の中から出てきたのは、血まみれの少女だった。

「セディ、仕事終わった!!!」

『わかりました。お疲れ様です。』

彼女は、電話をしまい、笑いながら自分のファミリーに戻っていった。

私達のルールー!! (後書き)

ルミネファミリーは、未来とこのころのファミリーです。

挨拶会！！

仕事が終わわり、自室に戻っていた。

「はあく、最近仕事ばつかでつまんない・・・」

今は、絶賛書類仕事！！

いつも同じ仕事・・・何でこんなに書類がたまるの！！

「未来様。さつさと仕事終わらせてください。」

「だって、つまんない！」

「はあく・・・あと、明日挨拶会があります。」

「ええ！？ふざけないでよ・・・で、誰が来るの??」

「出るファミリーのリストです。」

セデイに渡されたリストは、5枚くらいあった。

「なにこれ！？どれだけ同盟ファミリー多いの・・・」

これだけのファミリーいたら、裏切るのもわかるかも・・・

でも、最近同盟さんたち裏切るの多いよなあ

裏で何か働いてるのか？

「何かありましたか？」

「ううん。なんにもない……」

「もしかしたら、明日未来様の命を狙う方が、いるかもしれません。

新しいボスなので、知名度が高いんです。しかも、エメラルド様の娘ってことになっているので、

さらに、狙われるのです。」

そう、セディは、なんでも私のことについて知っている。

エメラルドの娘じゃないことも、シークレット・プリンセス『秘密の姫』ってことも……

「ねえ、もう夜遅いから、寝ていい??」

「はい分かりました、いい夢を」

「おやすみ……」

一礼して、静かに出て行った。

次の日……

いい朝だった。

今日は、挨拶会なので、準備をしないといけない。

コンコン……

「どうぞ、開いているわ。」

「失礼します」

朝早くから、セディが部屋を尋ねて来た。

「おはようございます」

「うん、おはよう。」

「服の準備が、出来てます。衣裳部屋に行ってください」

未来は、言われた通り部屋を出て衣裳部屋に行った。

中に入ると、数人のメイドたちが準備していた。

「お待ちしていました、ルビー様。」

未来は、一礼して、ドレスを見た。

「どういう服装にしますか？」

「大丈夫、自分で選ぶわ。」

「かしこまりました、メイクは？」

「メイクは、お任せするわ。」

ドレスを見ていると、いろんな種類がある。

ロングドレスがあったり、ひざまでのドレスがあったり……

「うん、いっぱいあると、迷うなあ」

迷った結果……赤のドレスに、胸にバラをつけ、ネックレスは、いつもつけている物、

靴は、黒のハイヒールに、リボンがついている靴。

「お似合いです。じゃあ、メイクをしましょう。」

髪をほどいて、ストレートになった。

それから、20分後・・・メイクが終わった。

「ありがとう。」

お礼を言って、出て行った。

部屋を出ると、セディがいた。

「お似合いです、会場のほうは、準備が整っています。」

「分かった。」

会場に向かった。

会場の舞台裏で、待機している。

アナウンスが入った。

未来は、舞台に立った。

「皆様、集まっていたいただきありがとうございます。」

ルミネファミリーブスのルビー・ルミネです・・・」

挨拶が進んでいった。

バン！！

ドアのところから、爆発音は聞こえた。

「未来様、こちらに来てください。」

裏に向かった。

セディに聞くと、同盟ファミリーの奴ららしい。

「どこだ！！ルビー・ルミネー！！」

どうやら敵が探しているのは、私らしい。

逃げていることに夢中だ。

急に、セディがとまった。

「どづしたの？」

「敵に囲われました」

「えっ！？」

未来たちの周りには、敵が100人ほどいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4582y/>

家庭教師ヒットマンREBORN! 秘密の少女

2012年1月14日12時48分発行